

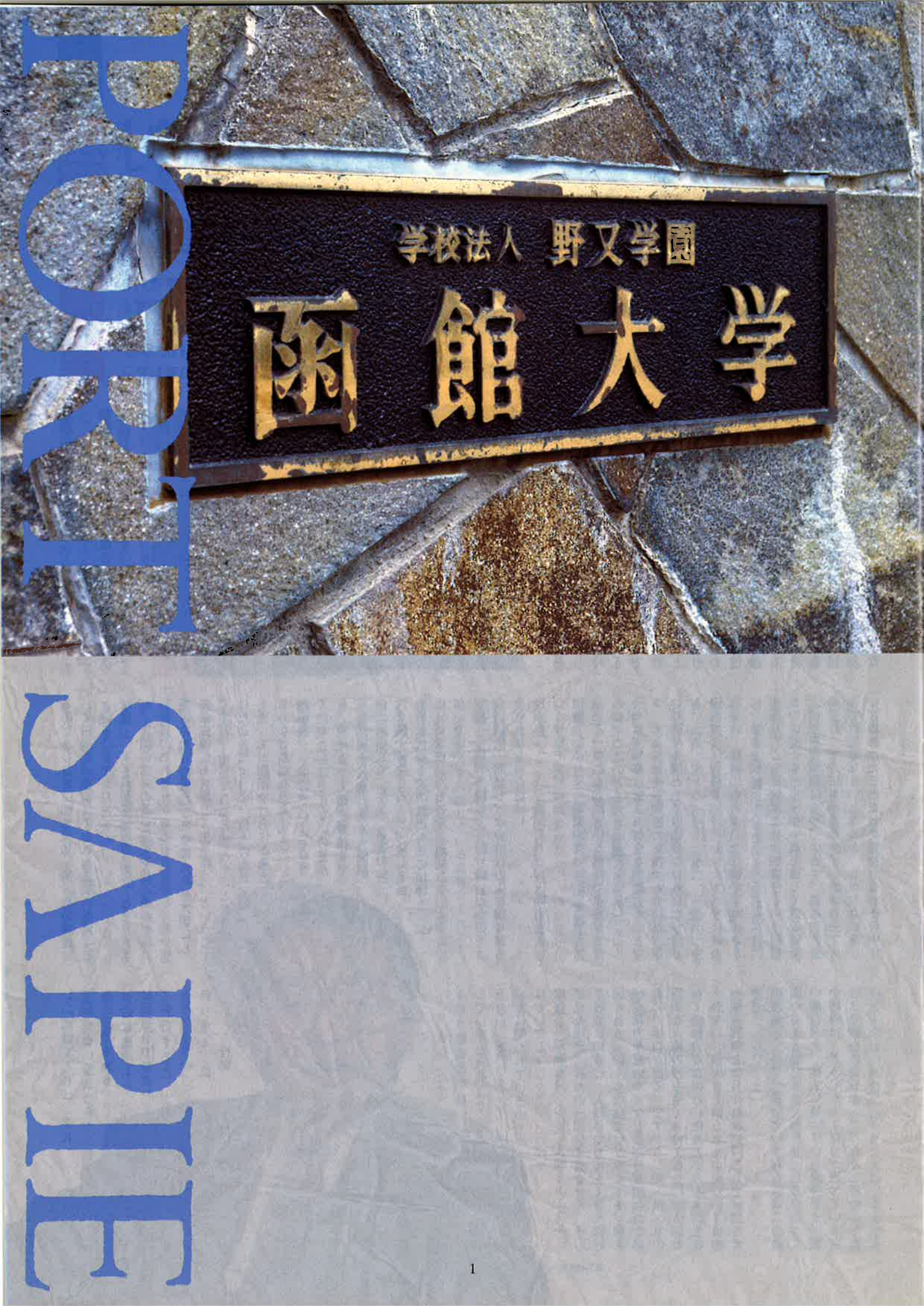


平成7年6月から12月までの主な日程

6月5日～17日	教育実習開始
7月1日	求人票公開
7月11日～8月31日	夏季休業期間
7月16日～22日	協学会地区懇談会開始
8月1日	企業訪問・採用選考開始
8月25日	HPUへ交換留学出発
9月1日	前期授業再開
9月19日	学園創立記念日
9月13日～29日	前期末試験開始
10月2日	後期授業開始
	就職内定公示日
	3年次第一回就職ガイダンス (以後毎週月曜日開催)
10月20日～23日	大学祭
10月24日～11月末	3年次就職個人面談開始
10月27日	新3年次専門ゼミ選択のための オリエンテーション
12月11日～1月16日	冬季休業期間

函館大学
広報誌編集事務局

〒042 函館市高丘町51番1号
TEL(0138)57-1181 FAX(0138)57-0298



C O N T E N T S

座談会「函館大学・建学の精神」 ●理事長 野又盛●学長 河村博官	2
特集Ⅰ The入試 「合格体験記」 ●矢代琢郎●上原貴子●倉澤千寿●湊俊一 「函館大学の入学試験」 ●高橋真●黒澤幹生●岡嶋雅昭●鈴木克尚●荒木弘子●稲村早苗 北から 南から 出身校紹介 作新学院高等部・保善高校・九州産業大学付属九州産業高等学校	4
特集Ⅱ The就職「'95就職戦線展望」 ●上平幸好●新関喜美男●干場勝●丸山真理子	8
企業訪問教員報告 ●藤嶋暁●世良耕一 ビジネスマナーABC●大江田清志	9
座談会「ロンドン・パリ私たちのヨーロッパ体験」 ●永盛恒男●田中弘樹●宮腰泰直●下権谷久和●御子柴隆史●宮本昌和 ●佐藤尚美●渡辺麻里亜	10
派遣留学生便り●池上千春●佐々木奈歩 受け入れ留学生便り●タン・スーレン●ハワード・シャロー	12
改革ビジョン「こんにちは。学生課です。」 ●満田春夫●宮腰泰直●山田陽子●島田まみえ	13
教員インタビュー「研究室から」 ●新谷典彦●赤松潤●若松裕之●片山郁夫●大江田清志 ●今井敏博●寺田隆至	14
ゼミナール紹介●高月晋●西村淳●津金孝行●田中三夫	16
はじめまして! 新任教員登場 ●山田康夫●佐藤元治●一戸あゆみ●島田まみえ	17
教職員プロフィール ●石井晋良●松嘉美夫●今野昌信●吉岡正敏●大山紀明●荒木弘子 お元気ですか? 想い出往来 ●佐藤裕●黒坂正次	18
読書テーブル●大野和雄●三浦俊和●新関喜美男●矢本多美子	20
エッセイ「青春記(二)」 ●伊藤結城夫	21
法律の窓口●佐藤憲一(弁護士) 健康相談室●村井茂(むらい矯正クリニック) 函館食べ歩き●小林裕一●成田亜紀●高橋美奈	22
函館企業訪問<株式会社魚長食品>●柳沢勝(社長) 私の函館散歩●ブライアン・ダップ●水谷健	23
函大ING 思考する。発言する。行動する函館大学	24
公開講座便り	25
クラブ紹介 軟式庭球部・ハンドボール部・軽音楽部・簿記研究同好会	26
野又学園プロフィール 函館ソフトウェア専門学校●北川要(校長)	27
OBから●高橋幸二●伊林徳男●藤山康夫	28
協学会だより 投稿コーナー百葉箱●宮崎正孝●井上能孝	29

PORT SAPIE 函館大学広報誌Vol.2

ぽるとさびえ

「ぽるとさびえ」は、ラテン語のポルトス（港や門を意味します）とサピエンティス（知恵や英知を意味します）を合成した造語です。みなさまのご支援と叱咤激励により、親しみやすさのなかにも、大学らしい英知の香を漂わせる誌面づくりを心がけてまいります。

「函館大学、建学の精神」

学校法人野又学園理事長

函館大学学長

野又 肇 × 河村博旨

函館大学は昭和40年4月に開学され、
本年、創立30周年を迎えようとしています。
学校法人野又学園の創立は昭和13年にさかのぼりますが、
本日は、学園の建学の精神を軸に、これからの
高等教育のあり方などを理事長と学長が語り合いました。



建学の精神

理事長／本日は、学園の建学の精神について語ろうという事です。何しろ深いテーマですから、前置きははぶきましょう(笑)。学長／いきなり本題ですか(笑)。まず、学園の建学の精神を一言で申し上げると、すなわち真の学問を身につけさせることですが、本学園で言う真の学問とは具体的に何を指すのでしょうか。



理事長／それは、真の学問について次のように書いてあります。真の学問とは言うまでもなく知・情・意を円満にしていれば、知性のみの学問は真の学問とはいえず、知性と徳性は別々に考えるものではなくて不離一体の関係を御座います。徳性の涵養を離れた学問というものはなく学問とはあくまで知性の総合的体得に外なりません。換言すれば学問とは信の一字につきるのでありまして「かの天に斗あるが如く人は信を常とすべし」の古い語にある通り、天の道するべし斗即ち星であり、人間生活の道するべしは実に「まこと」の一字に要約されるのであります。この意味に於て建学の精神は学園訓として具体的には三カ条にまとめられ、報恩感謝、常識涵養、実践躬行となつてこの三カ条の体得こそ真の学問を追求することになります。

理事長／本学園の創立者は、真の学問について次のように書いてあります。真の学問とは言うまでもなく知・情・意を円満にしていれば、知性のみの学問は真の学問とはいえず、知性と徳性は別々に考えるものではなくて不離一体の関係を御座います。徳性の涵養を離れた学問というものはなく学問とはあくまで知性の総合的体得に外なりません。換言すれば学問とは信の一字につきるのでありまして「かの天に斗あるが如く人は信を常とすべし」の古い語にある通り、天の道するべし斗即ち星であり、人間生活の道するべしは実に「まこと」の一字に要約されるのであります。この意味に於て建学の精神は学園訓として具体的には三カ条にまとめられ、報恩感謝、常識涵養、実践躬行となつてこの三カ条の体得こそ真の学問を追求することになります。



いい点数をとれば、それでいいというよう...。ですから、社会に出て、結局自分で考えて行動することができない。自ら考え、自ら行動

する、そういう教育に転換していかなければならない。今、そこが、非常に問われているのではないだろうか！

学長／学問も同じで、受け継いだものをさらに活用・開発し、次の時代の人に譲り渡さなければならぬ。理事長／そうですね。それが、人間を主役にした教育です。学長／そして「常識涵養」。この常識とは、単なる一般的な知識という意味ではありません。ここを強調したいのですが、それは、物事に対する健全な判断力のことです。そして健全な判断力を持つためには、深い知識や人間としての徳がなければなりません。理事長／知識といつても、上すべりに終わらない、経験にもとづいた知識ですね。さらに、健全な判断を下すということの裏には、そうしたことに対する社会的責任という問題もついてくる。小・中・高を通して偏差値至上の教育が問題になっていきます。長年、教育を受けてきたにもかかわらず、さあ自分で考えて行動しなさいとなると、なかなか出来ない。教わったことだけを勉強して、その中で

理事長／私は、自分という存在には二つの面があると思います。つまり、自分が思っている自分と、他人に映っている自分です。若い諸君は、どうしたって自分が思っている自分こそ本当の自分なんだ、などと思ってしまう。

は、まず人間教育を大切にするというのが、設立当時から思想です。そして、建学の精神を、教育の中に反映して活かしていきたい。学長／これからの国際社会に向かつて、ますます広く人類社会や国家社会に貢献できる人材の育成をしていくことですね。

理事長／そして、専門教育とは、単なる知識だけじゃなく、人間として生きるといふことを学ぶこと。授業やゼミの中で、もっと先生と何でも話し合つて、その中から人間としての生きることを学んでほしいと思います。例えば、一方的に講義を聞くだけじゃなく、いろんな先生とのディスカッションを通じて、先生の生き様を見て、その中で生きることを考える。四年間という長いようで短い期間の中で、自分なりに、生きることを考えてみてほしい。そういう意味では、教員に対する期待は非常に大きいですが(笑)。学長／もっともですね(笑)。自分の周囲や職場を通じて社会に貢献するために、学生時代に、精神力や技術能力、実践力を身につけなければならぬ。知識だけ、考えているだけじゃ、ダメだということ。知識を混合して知恵を絞り出して、「実践躬行」しなければ！



理事長／知識は、ただ知っているだけじゃダメですね。それを、どう活かすかということ。その知識を行動にあらわすこと。そして、あらゆるものに興味を持ち、最後までやり通

す意志の力、そのための健康な身体づくりも行ってほしい。学長／そして、創意工夫して知恵を出して実行する苦しみと喜び、つらいことに耐える喜びも知ってほしいですね。理事長／他人に何かをしてもらうということじゃなく、他人に何かをしてあげることの喜びも。そういった意味で、学生を指導する教員の質も非常に問われます。本学では、優秀な教員に来ていただくために、全国的に幅広く求人を行ってきました。おかげで全国から、社会経験を積んだ、専門的な能力のある先生方が、たくさん入ってきています。これは学生にとっても大きな魅力ですね。学長／そういう先生方は経験があるから、組織社会のことを熟知され、理論にも強い人材ですね。実務経験豊かなから、地に足が付いた、まさに「実践躬行」に適した教育ができるのだと思います。理事長／やはり、一度社会に出て、そういう面を経験した先生方というのは、幅広い人間の生き方を経験している貴重な人材です。学長自らが熱心に企業を訪問して、企業から優秀な人材をどんどん派遣してもらっていることは大変よいことだと思います。学長／三井、三菱、住友、三和、芙蓉というような日本を代表する企業グループの中核企業から講師を派遣していただけるようになりまして、これからは、実務経験のある人材に、どんどん活躍していただきたいですね。そして、これらのご協力を賜っている企業の方々の方々に対して、感謝し、我々一同も奮起せざるを得ません。理事長／今まで、家庭でも教育でも、人間が生きるといふことを教えてこなかったわけですよ。まさに偏差値教育で、1点でも高い点数をとって、いい大学に入るように。自分だけの点数をとって、自分だけのいい大学に入って、自分さえよければいいという利己

的な人間は、社会に出たとたんに、今までそんな訓練をしてこなかったから、協調性が持てない。学長／そうですね。だから、金儲けさえすればいいとか、自分の企業さえあればいいとか、日本だけよければいいというのが、国際社会では通用しない。理事長／本学は、学園訓にうたうように、人間というものを大事にする教育、そして徳育・知育・体育のバランスのとれた人間を育成するということを、一貫して言い続けています。学長／それが、おのずと、真の意味のエリートになるのだと思います。将来、何をやりたくて、どういう人生を送るのかというビジョン、そのための情熱を持ち続けるパッション、そして具体的に何をどうするかというデイスイジヨン、実際に行動するアクション。この4つの要素が大切ですね。これらをきちんと身につけてもらうために、限られた4年間を有効に使う。こういうリーダー、エリートとしての条件を備えた人材を育成すること、そして人類社会に貢献をする—これこそ、高等教育の使命であると自覚しています。



「入学・そして今後の目標」

一年●湊 俊一
(北海道・北海道函館養護学校出身)

はじめまして。車椅子で通学している男と言え
お分かりだと思います。僕は、地元でたくさんの仲
間と共に学び、接していきたいーそんな思いと、先
輩のアドバイスが、函館大学の受験を決意させまし
た。

高校二年生の春、全国の高校生を対象に行われた
論文コンクールで入選し、アメリカ研修旅行を体験
する機会を得ました。その時同行した東京の先輩の
「僕の大学でも車椅子で通学している人がいるよ。
湊君も頑張って大学行けよ。それは普通の事だと思
うよ」という言葉が、合格に向けて自分自身の大き
な力となったのです。

僕は小・中・高と函館養護学校で学びました。こ
れまでとは環境が異なる学内で、母の介助を受けて
通学していますが、一日も早く自分の力でキャンパ
スライフを送りたい。これが現在の目標です。僕は
体の筋力が無い病気のため、腕の力も弱く、教室へ
の移動や鞆から教科書などを出すことが出来ませ
ん。しかし、これらを除けば、ごく普通のスポーツ
好きで愉快的な男です。気軽に声をかけてください。
そして手を貸してもらえれば嬉しいです。

これからの四年間、自分のためにも、今でなけれ
ば体験できないたくさんの経験を積み、将来、「あ
あ、函館大学へ行って良かった」と思える様に、そ
して多くの障害者のためにも頑張りたいと思いま
す。

大学から

湊さんは、第1期入学試験で入学。持ち前のガッツと
努力で、大学生活を思い切りエンジョイしています。

第
一
期
入
学
試
験
で
合
格
し
ま
し
た。



第
一
期
入
学
試
験
で
合
格
し
ま
し
た。



「夢にむかって」

一年●會澤千寿
(茨城県・山方商業高等学校出身)

函館大学に入学して、早三週間が経つ。気楽に過
ごしてきた高校生活から抜け出し、何事にも大人と
して扱われる大学生活へと足を踏み入れた今、全て
において「責任」という言葉がついてくる。今日ま
で、自分の行動に責任を持つことなど考えてもみな
なかった。しかし、いざ親元を離れ、一人の生活が始
まると、「考えることの大切さ」が、ほんの少しだ
けど分かったような気がする。一人ということで
「自由」を手に入れ、その反面、自分を見つめ直し、
考え直す時間が増えた。

さて、私の四年間の目標は、『教職員資格を取得
すること』で、これは私の母も強く望んでいる。ま
た、「自分たちが、子どもたちに残してあげられる
のは、教育ぐらいしかないから」と言って通わせて
くれた両親に感謝したい。そして、この目標を達成
することが、そんな両親への孝行になるのではない
かと考えている。

今は、たくさんの友人と共に充実した毎日を送っ
ている。この先、どんな困難が待ち受けているかは
分からないが、決して怯むことなく自分の夢を達成
させたい。今まで随分とあきらめてきた夢があった。
時には、簡単にあきらめてしまった自分が情けなく
思ったこともあったが、今度の目標だけは、どんな
ことがあっても、自分が納得できるまで全力で頑張
ろうと思う。

大学から

會澤さんは、特別奨学生として入学。これは、第1期
入学試験の成績上位者の中から面接選考で選ばれるも
のです。

推
薦
入
学
で
合
格
し
ま
し
た。



「魅力いっぱいの函館大学」

一年●上原貴子
(静岡県・御殿場高等学校出身)

私は、高校を卒業したら一人暮らしをしたいと思
っていました。なぜかという、家族と一緒に生活
をしていると、必ず甘えてしまって、いつまでたっ
ても自立できないと思ったからです。そこで私は、
自分が学びたい商学系の学部を開設している大学の
資料をたくさん集めました。それらの中で、函館大
学はとても魅力的でした。どこが魅力的だったのか
具体的にいうと、まず所在地が函館というところで
す。函館は何度も遊びに来たことがあり、全く未知
の土地ではないので、一人暮らしも安心だと思いま
した。次に、他大学に比べて少人数なので、細かい
ことにも適切なご指導を頂けるというところに惹か
れました。例えば、就職活動をする際に、一人で悩
むより経験豊かな先生に相談に乗って頂いた方が、
より良い結果を得られると思います。そういった点
で、函館大学は、S.L.などのゼミで学生と先生とが
親しく接することのできる場ももたれているので、
とても心強いのではないかと思います。その他にも
様々な事柄を考えた結果、この函館大学を受験す
ることに決めしたのは高校三年生の秋でした。周りの
友だちよりも学校を決めるのが随分遅かったので、
とても心配されましたが、なんとか試験に合格する
ことが出来て、今、この大学に私がいるわけです。

大学から

上原さんの場合は、特に自己推薦書のポイントが高
く、充実した高校生活と、大学生活への熱意意気込
みが評価されました。

第
二
期
入
学
試
験
で
合
格
し
ま
し
た。



「函館大学に入学して」

一年●矢代琢郎
(北海道・函館中部高等学校出身)

私はこれまで、函館大学には地元出身者が多いも
のと思っていました。しかし、入学式場で話され
ている周囲の言葉を聞いておきますと、青森や大阪
などで使われる方言が多く、私の想像とは大きく違
っており、あらためて函館大学は全国規模の大学で
あることを実感いたしました。

入学式では学長の祝詞をはじめ、教授の方々のお
話に接し、大学の持つ重みを感じると同時に、オリ
エンテーションの際に、先生方がユーモアを交え
て話された学生生活の過ごし方や大学生活の中心と
なる講義の大切さ、また、大学は友だちをつくる最
高の場所であること等を親身になって話された内容
から、先生方の新入生に対する期待と、将来立派な
社会人になることを願っておられる姿勢と意気込み
とを強く感じました。

各地方から本学に集まって来た函館弁を知らない
仲間たちと、そして函館の歴史と情緒を知りたいと
願う好奇心の旺盛な学生たちと共に、学問とクラブ
活動を通して、この四年間を有意義に過ごしたいも
のと思っています。

大学から

矢代さんは、アラカルト方式のある第2期入学試験で
入学。得意科目を持つ利点を十分に活かしました。

〈合格体験記〉

函館大学では、より幅広く多彩な入学者を募るために、
入学試験の方式に新しい切り口を積極的に取り入れています。
それぞれのチャネルから合格した学生諸君の生の声を、
本誌に寄せていただきました。

函館大学の 入学試験

「大学逆指名」の時代です。大学をひとつの企業とする、消費者（受験生）と最初に接するという意味で、入試活動はマーケティング活動と言い換えることができるでしょう。函館大学の入試制度についてご説明しましょう。

求む、多様な好奇心



●岡嶋雅昭

会計学に向けたセン
スを持った人がいれ
ば、スポーツにすばら
しい才能を持った人も
いる。身体に障害を持
った人がいれば、そ
れをサポートする人が
いる。南国生まれが
いる。大学という
共同体は、多様な人
間の集まりであるべ
きです。どんなケー
スにも当てはまるこ
とですが、同じよう
なタイプの人間だけ
が集まる集団には、
新しいものを創造し
たり、異なる分野を
積極的に切り拓いて
いくような力は生ま
れません。いろいろな
価値観や個性がぶつ
かり合うことでその
集団のパワーがゆ
るぎないものとな
ります。そのために
私たちはまず、な
によりさまざまな
タイプの学生諸君に
入学してほしいと考
えます。現在本学
の入試制度は、その
目的のためにさま
ざまな改革を施行中
です。



●黒澤幹生

函館大学の入学試験は、筆記試験が中心の「第1期・第2期入学試験」と、書類と面接が中心の「推薦入学試験」に大きく分けられます。推薦入学試験においては、平成7年度入試から「自己アピール書評価制度」を導入し、また、平成8年度入試からは「スポーツ・カテゴリー」が新設されます。その他、いくつかの変更点を、順を追ってご説明しましょう。

●自己アピール書評価制度

地域ボランティア活動、人命救助など、社会的貢献度が高い行動。囲碁・将棋の段位など、課外活動等業績評価の対象にならない文化活動や諸資格。クラブのマネージャーを通じて得た感動的な体験など、課外活動等業績評価の対象となるが特別強調したい活動を有していること。こういった事柄に該当する受験者は、「自己アピール書」(本学所定)を書くことができます。これによって、単なる実績だけでなく、それを通して自分がどう考えたように成長していったのかまでをアピールすることができます。

この内容は、0.2ポイントを上限として推薦入学試験(一般)の評価ポイントに付加されます。記載する内容は、高校時代のものに限定されません。

●入試会場の新設

第1期・第2期入学試験で名古屋会場、推薦入学試験(一般)で名古屋・仙台の2会場を新設しました。

●課外活動等業績評価対象項目の拡大

従来の課外活動等業績評価対象となる検定試験合格者に加えて、つぎの合格者にも段階に応じてポイントが加算されるようになりました。

- ① TOEFL
500点以上 / 0.5 470点以上 / 0.4
450点以上 / 0.3 430点以上 / 0.2
- ② 秘書検定試験(実務・全経)
1級 / 0.5 2級 / 0.3 3級 / 0.2
- ③ ワープロ検定試験(日商・全商)
1級 / 0.5 2級 / 0.3 3級 / 0.2
- ④ 英語検定試験(実用・日商)
準2級 / 0.25

これらのポイントは第1期・第2期入学試験を受験する際にも適用できますから、忘れずに申請してください。

●「特別奨学生入学試験」の第1期入学試験への繰り入れ

従来は独立した入試区分であった特別奨学生入学試験を、平成7年度から第1期入学試験へ繰り入れしました。第1期入学試験における試験成績上位者を

面接し選考。特典として、入学から卒業までの学費(入学金・授業料)を奨学金として給付します。

●第1期入学試験でアラカルト方式を採用

全国的にもユニークな方式で、国語、英語、数学、簿記会計Ⅰ・Ⅱ、日本史、世界史、政治・経済の中から、試験会場で2科目を選択することになります。試験会場で実際に問題を見てから、自分に合った教科を選ぶことができますから、得意科目を充分に活かした受験が可能です。

●推薦入学試験「スポーツ・カテゴリー」の新設

本学募集種目において、高校在学中優れた成績をあげ、入学後も当該種目の活動を継続する意志があれば、クラブ顧問の推薦により受験できる制度です。書類審査による第1次選考に合格後、実技・面接による第2次選考となります。

●今後の試み

さらに今後は、帰国子女の枠を設けたり、社会人の枠を拡充していくことも合わせて検討しています。

入試日程

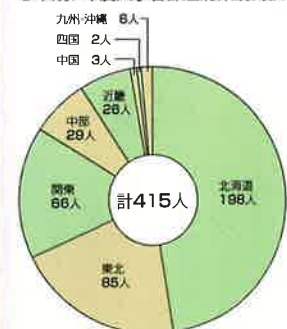
- 第1期入学試験
出願期間 平成8年1月8日(月)～同1月19日(金)
試験日 平成8年2月1日(木)
合格発表日 平成8年2月13日(火)
- 第2期入学試験



●荒木●鈴木

- 出願期間 平成8年2月22日(木)～同3月8日(金)
- 試験日 平成8年3月19日(火)
- 合格発表日 平成8年3月26日(火)
- 推薦入学試験(一般)
- 出願期間 平成7年11月6日(月)～同11月17日(金)
- 試験日 平成7年12月1日(金)
- 合格発表日 平成7年12月8日(金)
- 推薦入学試験(スポーツ・カテゴリー)
- ☆第1期
- ◇第1次選考(書類審査)
- 出願期間 平成7年9月25日(月)～同10月4日(水)
- 合格発表日 平成7年10月13日(金)
- ◇第2次選考(実技・面接)
- 出願期間 平成7年10月19日(木)～同10月25日(水)
- 試験日 平成7年11月1日(水)～同11月2日(木)
- 合格発表日 平成7年11月15日(水)
- ☆第2期
- ◇第1次選考(書類審査)
- 出願期間 平成7年12月8日(金)～同12月18日(月)
- 合格発表日 平成7年12月26日(火)
- ◇第2次選考(実技・面接)
- 出願期間 平成8年1月13日(土)～同1月19日(金)
- 試験日 平成8年1月25日(木)～同1月26日(金)
- 合格発表日 平成8年2月8日(木)

●平成7年度入学者都道府県別内訳



●入試事務局スタッフ

- 教務課長 黒澤幹生
- 教務係長 岡嶋雅昭
- 課員 鈴木克尚
- 課員 荒木弘子
- 課員 稲村早苗

北から。南から。出身校紹介

【作新学院高等部】

受験指導の徹底と人間教育を重視した
百年の伝統校

作新学院は一八八五(明治十八)年に創立された私立学校で、今年創立百十周年の節目の年に当たります。

「作新」それは中国の書物「大学」にある「日新又日新作新民」に由来するもので、日日精進すれば、民を奮いたたせ、気分を一新することができる、という意味です。

校風は「一校一家」、教育方針は「自学自習」「誠実勤労」をかげています。建学の精神を尊重しながら、時代の流れを見直し、時代の変化に既応できる人間の育成を目指し、作新学院は進んでいます。

作新学院は四部制になっており、英進部・男子部・女子部・情報科学部からなります。英進部は文学進学を目指す生徒に適したカリキュラムのもと、受験指導の徹底をはかっており、男子部・女子部は部活動を奨励し、個性尊重・人間教育にウエイトをおいた教育を目指してあります。また、情報科学部は職業系の学科を設け、就職希望の生徒が学習しやすいカリキュラムを編成してあります。高等部生徒数は約八千二百名。全国でも有数の大規模校で、文武両面で多様な卒業生を輩出しております。



【保善高等学校】

生徒一人ひとりの個性と能力を伸ばす、
文武両道の精神



「山手線から見える学校」「スポーツが盛んな学校」、今年で創立七十二周年を迎える保善高校のイメージは、この二つに代表されます。

全国大会で優勝四回のラグビー部を筆頭に、毎年全国大会に出場している陸上競技・体操競技部をはじめ、ほとんどの運動部は東京都で上位に入る好成績を残しています。

しかし、保善高校はスポーツだけの学校ではありません。学業については、選択制カリキュラムをとって、生徒一人ひとりの個性・能力を伸ばせるよう配慮するとともに、一年次から徹底した進路指導を行い、進学への意識を高めるよう指導しています。その結果、年々大学合格実績を伸ばしており、函館大学へも毎年優秀な生徒が複数進学しています。

また、将来、国際的視野にたつて様々な分野で活躍できる土台を作る目的で、姉妹校であるハワイ州立高校との長期・短期交換留学を実施したり、夏季休暇中に約四週間イギリスの語学学校に留学する語学研修を実施するなど、多彩な活動を行っています。

【九州産業大学付属九州産業高等学校】

知育・徳育・体育の
バランスのとれた
人材の育成を図る

本校は一九六一年、工業高等学校として福岡県筑紫野市の地に発足いたしました。その後、九州産業大学付属九州産業高等学校として普通科を設置し、総合学園として現在に至っております。



「卓然自立」「協力実践」「創意工夫」を綱領に掲げ、かつ「専門家である前にまず人であれ」という一貫した教育理念のもとに、知育・徳育・体育とバランスのとれた人間性の育成に努めてまいりました。また、情操性豊かで公共心に富む人物の育成を目指して、道徳の時間を設定。心身ともに健康で、楽しい学園生活が送れるように「一人ひとりを大切にする指導」を心がけております。

普通科、工業科を併せもつ総合学園という特徴を生かし、普通科でも各種の検定試験が受験でき、様々な資格を取得することが可能です。また工業科の生徒についても進学の道が用意されており、毎年数多くの生徒が大学等へ進学しております。一九九一年より、国際教育の一環として、毎年四十名を奨学生として選抜し、二十二日間のオーストラリア海外研修を実施し、さらに現地より先生を招き、オールコミュニケーションの授業の充実を図り、次代を担う国際人の育成にも取り組んでおります。

クラブ活動では、高校総体十三回連続出場の手部をはじめ、全国大会にも度々出場しているバレー部、実業団へも優秀な人材を送り出しているハンドボール部、甲子園出場経験もある野球部など、多くのクラブが高校総体、国民体育大会へと出場しています。

【函館西高等学校】

恵まれた自然環境と多くの著名人を輩出した
九十年の歩み

函館山麓の教会群と自然、見おろす外海と内海、素晴らしい学習環境に佇む階段式七階建ての校舎。明治三十七年に北海道庁立函館高等女学校として創立されて以来、つづけ丘として親しまれた本校は、その名の通り、今がその花の盛りでもある。

昭和二十五年に男女共学となり、北海道函館西高等学校と名を改め、今日に至り、本年創立九十周年を迎え、その卒業生は二万四千余人を数える。

「志高く理想を求め、真理を探究し、情操豊かに生きる」の校訓の下、多くの在野著名人、学究の徒を輩出している。

小説家に佐藤康志、辻仁成、詩人に麻生直子、評論家に北村巖をはじめとする文学界著名人、その他音楽、美術、書道の分野でも幅広く活躍している。

クラブでは、函館湾のヨットハーバーに練習場を持つボート部が特色で、かつてのソウルオリンピック選手、小林真樹を輩出している。校舎よりさらに高くにあるグラウンドは、函館の街を一望でき、訪れる人も多い。



その他お問い合わせ
ご相談は、右記まで。

函館大学入試事務局
〒042 函館市高丘町51番1号

フリーダイヤル 0120-001172
TEL0138-57-1181 FAX0138-57-0298(9:00~16:00、土曜日は12:00まで)



●上平幸好

上平幸好
新聞喜美男
干場 勝
丸山真理子



向かい風の中、全学あげて取り組む就職指導

ゆるやかな回復に向かうとされた経済情勢のなか、九四年度の就職戦線は、しかしながら前年に続いてなお氷河時代とも例えられる冷え込みを見せました。厳しい経済情勢であればこそ、企業は真に幅広い将来性をもった学生を厳選したいと考え、まず能力適性検査でふるいにかけたり、志望強度を確認するために面接の回数を増やすなどの新たな傾向もあらわれてきました。そうした中、本学は就職希望者二百五十三名に対して七百七十社の求人を受け、厳しいと言われた女子においては一〇〇％就職達成と、これまでの全学をあげた取り組みの蓄積が効果をあげたといえる結果となりました。また、資本金十億円以上の企業への内定比率が九三年度の二一％に対して九四年度が二六％と五ポイントほどアップ。新規採用も、日本銀行をはじめとして多数にのびりました。



●新聞喜美男

近年の求人数の全国的な減少は、客観的に言えばバブル経済時代の前の水準に戻ったというところまでできるでしょう。つまり、バブル時代の数年間が「異常」なのであって、そう考えればなんら悲観することはないという見方もできるのです。



●就職部スタッフ



●干場 勝

そして九五年度は

厳しい円高の逆風もあり、本年度の採用数の伸びもあまり期待できるものではありません。こうした中で就職部では、あらためて基本に立ち返り、基礎学力の向上、自己分析と自己理解の徹底を指導していきたいと考えています。面接を突破するためだけの付け焼き刃のテクニックにたよるのではなく、これからの人生において自分は何をしたいのか、そして何ができるのかをしっかりと把握し、これを採用担当者に強烈にアピールできる力をつけること。そのためには入学時から就職のことをきちんと意識しておくことが必要です。具体的には、三年生の秋から本格化する就職ガイダンスで、ご父母の皆様に対しては「就職ニュース」や「協学会だより」での告知などで、就職への意識を高めていただこうと努めています。

企業訪問教員報告

◆助教 藤嶋 暁

日本の企業から、「定期採用」という言葉が、消滅する時代も来るのではないかとの予感を持った企業訪問でありました。

誤解のないように追加すれば、来るべきマルチ・メディアや新しい事業形態への参入を目指して、大量の学卒者採用を計画している会社もあり、また春先に大量の新卒者が出るという事実からすれば、卒業に見合った採用はあってほしいと思います。

しかし、大きな流れとして、これまでのような未技能・未経験・未知識・白紙で、「能力開発は会社に入ってからお願いします」と

言う大卒者の採用は、極端に少なくならざるを得ないのではないかと感じます。日本でも既にそんな方針を打ち出した会社があります。が、欧米企業と同じように、欲しい時に欲しい人材をとと言う、経済的な「年間採用方式」への移行が始まるのではないのでしょうか。

こんな状況の中で、訪問させて戴いた各社の皆さんが、本学の学生が持つ北海道らしい新鮮さや誠実性、勉強やスポーツへの真摯さなどを評価して戴き、一人でも多く採用してやろうと考えておられる様子を伺うことができました。学生諸君はもとより、学校を挙げて、「採用しても、決して損はさせませんよ」と言える自信を付けたいなど実感しながらの帰途でありました。

◆専任講師 世良耕一

そして私事ながら、学校に転じて一年。お互いに人材開発に携わる者として、各社の採用担当者の方々と、「いかにすれば、より人間に深くありうるか」をお話し出来たことは最高の幸運でありました。あらためて、貴重なアドバイスと時間を戴いたことに感謝致します。

当初、企業訪問をアポなしの飛び込みで行うと聞いたときに、「本当にうまくいくのだろうか」と不安に思いました。というのも、銀行に在職していたときに、同期からアポなしの飛び込み営業の大変さを聞いていたからです。しかし、いざ企業訪問してみると、その不安は吹き飛びました。どの企業も、突然の訪問に快く応じてくれました。特に、本学の卒業生が在職している企業は、一様に歓迎してくれました。この卒業生のネットワーク

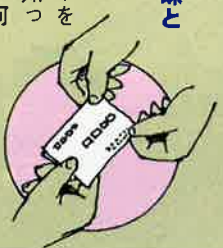


クを生かさない手はありません。学生のみならず、積極的に卒業生にコンタクトを取り、直接会って話を聞いてみてください。私の経験からしても、外から見た会社の印象と、中から見た印象には、相当ギャップがあるものです。就職してから後悔しないために、卒業生からの生の情報が必要なのです。卒業生のみならず、お忙しいところ申し訳ありませんが、在学生が訪問した際にはよろしくご指導願います。

ビジネスマナーABC

助教 大江田清志

●名刺交換の意味と方法



ビジネスマナーを単に知識として知っているだけでは、何の価値も認められない。職場には、その場面に応じたよい行動モデルが身近にいるはずであり、習うより慣れよの精神で、それを行動に現すことが大事である。

今回は名刺交換をテーマとする。心得ておくべきことは、名刺を受け取るという行為は相手の人格を受け取る行為となるという点である。したがって、相手の人格を名刺交換の場で尊重するためには、名刺を自らが差し出す位置よりも相手の少し高い位置に軽い弧を描くように、腰を折って深めに会釈し、名乗りながら差し出すことがマナーとなる。

次に相手の名刺を受け取るときは、同様の姿勢で名刺入れを添えた両手を前に出して受け取ることが丁寧な作法となる。名刺を相手より先に差し出すことにより、相手の名刺を両手で受け取ることができるのであり、名刺交換のポイントが渡し受け（渡してから受け取る）にあるといえるだろう。

ビジネスに限らず、マナーにはその背後に固有の精神や価値観があることを承知しておく必要がある。名刺交換のマナーには、相手の人格を尊重して受けるという精神があり、茶道のマナーには、一期一会の精神がある。換言するならば、マナーの背後にある精神や価値観に沿った行為ならば多少の失敗も許されるといふことになる。

第12回海外研修旅行

「ロンドン・パリ私たちのヨーロッパ体験」

函館大学では、姉妹校のハワイバシフィック大学などへ、毎年海外研修団を送ってきました。第12回目に当たる94年度の海外研修は、初めてのヨーロッパ(ロンドン・パリ)。94年12月12日、永盛助教教授を団長とした一団(引率者3名・学生37名・添乗員)は成田空港を出発。12月23日に無事帰国するまで、有意義な見聞をさまざまに広げることができました。ヨーロッパの思い出や印象などについて、気軽に語り合ってくださいました。

ロンドン・パリの見どころはいろいろ！

司会／皆さんヨーロッパ研修はいかがでしたか？ちょうどクリスマスシーズンで、街はイルミネーションがきれいでしたね。ヨーロッパの冬はシーズンオフだなんて言われてますけど、冬は冬の良さがありませんでした。印象に残ったことや思い出深いことを話してください。

宮本／まずロンドンでは、東京以上に地下鉄が発達していることに驚きました。乗車券がずいぶん安かったのも、地下鉄を上手に利用して、いろんな場所に行きました。御子柴／やっぱり、何と言っても、イギリスの「グリニッジの天文台」で、地球の経緯を東西にまたいだことが最高(笑)！はじめての国で、読めない文字や時刻表を必死で調べながら、自分の力で行動したことも忘れられませんね。

下権谷／ロンドンで見たミュージカル「レ・ミゼラブル」！今までミュージカルを見たこともなかった僕が、すっかり感動してはまってしまいました(笑)。

渡辺／一番印象に残っているのは、「ベルサイユ宮殿」。言葉にならないほどの美しさに、思わずため息(笑)。ロンドンでは、ピカデリーの「ロック・サーカス」！ビートル



●渡辺真里亜

「のろう人形館と違って、歌ったり踊ったりパフォーミングスリヤウ(笑)！」宮本／そうそう。人形がステージの上でコンサートやってるんだよね。ヘッドホンから音楽がガンガン流れてきて、会場全体が回る！なんと、座ってる席まで(笑)。

宮腰／僕が一番印象に残っているのは、フランスでリドのカニバルの最中に四九歳の誕生日を迎えたこと。まさか自分がシャンゼリゼ通りで「オー！シャンゼリゼ」を歌っているとは思わなかったなあ(笑)。知らず知らずのうちに、歌いながら歩いてた(笑)。田中／私も初めて行ったときに歌ってましたよ、思わず(笑)。

佐藤／パリの自由な風みみたいなものが、心を解放してくれる感じ。日本だと恥ずかしくてできないことも、ついやってみたくなりましたよ。

下権谷／僕なんか、ファーストフードでハンバーガーを買ったときに、フランス語がうまく伝わらなくて、注文するのに一人で五分位かかってしまい、後ろに行列が出来ちゃいましたよ(笑)。最後の最後になって、やっと英語で聞きかえしてくれたのですが、最初から英語で聞いてくれよ！と思いました。

今度行ったら、さらにもっと楽しめそう

司会／ヨーロッパから見て、日本人のふるまいといったことで気づいたことは？

宮腰／日本人は、ホテルや街角で気軽に声をかけて、知らない人とはあいさつを交わそうとしな



●宮腰泰直

い。おはようとか、今日はどこ行くの？とか。佐藤／私も含めてですけど、日本人のマナーの悪さが気になりました。「ルブル美術館」でどこにあるかわからないくらい、とにかく広いんですね。だんだん時間がなくなってきたので、モナリザを探そうと館内をダッシュしてしまい、マナーが悪かったなあ反省しました。着いたら行列でしたが、並んでやつと見ることができました。

田中／以前僕がロンドンにいたときにお世話になった、ウェルズ先生というロンドン大学の音声学科の先生がいて、その先生と

下権谷／それから、五人の仲間と「ユーロデイズニ」にも行きました。地下鉄R.E.R.に乗れば、直通で四十分。昼から出発したので不安もありましたが、なんと切符を買って列車に乗って、ちゃんと遊んで、食べて、帰ってこられた(笑)。その日の夜は、友だちと三人でセーヌ川下りにも行きました。フランス語の説明だけじゃなく、日本語の説明もあって感激もひとしお。乗船時間は一時間二〇分くらい。船の二階から見ていたので、ちよつと寒かったのですが、ライトアップされた建物がキレイでした。



●田中弘樹

田中／今回の旅行は、数名のグループにより、学生たちだけで行動することがメインでした。みんな戸惑って、なかなか動けないのではという心配もありましたが、かなり積極的に動き回ってくれて、トラブルもなかったです。予想以上の収穫だと思えます。下権谷／恥ずかしがらないで何でもやってみよう！って決めていたので、言葉が通じなくてもチャレンジしたのが良かった(笑)。



●永盛恒男

昼食会の機会を持つことができたんですよ。学生が二人ぐらい参加して、この中では下権谷くんがいたのですが、もっと積極的に英語を話してはしかったです。そういう席で、日本の学生はやはり消極的なようですね。



●下権谷久和

下権谷／いろいろ聞きたいことはあったのに、みんなが聞くと恥ずかしくて、つい黙ってしまふ。できればロンドン大学で講義しているところ見たかったですね。どんな風に授業しているのか、学生の授業態度はどうなのかも見てみたい。日本の学生との違いなども、はっきりわかるだろうし。

田中／近い将来に実現させたいですね！司会／ぜひ、実現させましょう！では、今回の研修でのよかった点と反省点は？

田中／一週間／一〇日間ぐらいの日程が、僕は理想的だったと思います。ロンドン・パリだと、地下鉄が発達しているの移動が楽ですし、街自体も東京よりずいぶん小さい。

御子柴／自由行動が多かった点、この研修の最大のポイントです。たしか、三分の二ぐらいはありましたよね(笑)。



●御子柴隆史

フランス語をもっと勉強しなくちゃ！

司会／言葉の問題はありませんでした？

下権谷／フランス語の授業、もつとがんばっておけば良かったなあ。英語は単語さえ聞き取ることができればなんとかなるので、フランス語はキツイものがありますね(笑)。やっとなの想いでフランス語で話しかけて、やっとな！通じた！って思ったら、返ってくる言葉が聞き取れない。現地の人

- 下権谷久和さん
(商学会計コース・岩手県・福岡高校出身)
- 御子柴隆史さん
(経営情報コース・東京都・松本鎌ヶ崎高校出身)
- 宮本昌和さん
(経営情報コース・東京都・鳥山工業高校出身)
- 佐藤尚美さん
(国際英文秘書コース・北海道・石狩南高校出身)
- 渡辺麻里亜さん
(商学会計コース・秋田県・本荘高校出身)
- 団長／助教 永盛恒男
- 引率者／専任講師 田中弘樹
- 引率者／学生課長 宮腰泰直



けど。それがうまくいった(笑)。

下権谷／パリがあと一泊欲しかったですね。ちよつと忙しかつた。もう一泊あれば、もつと楽なスケジュールで行動できたかな。

田中／ロンドンとパリ四泊ずつがベストかな？

宮腰／私の立場としては、自由行動が多いから、トラブルが心配だった。でも、へたすると引率者の僕の方が足手まといになりそうだった(笑)。

司会／機会があれば、また行きたいと思いませんか？

御子柴／短い期間でしたが、本やテレビで見たり聞いたりしているヨーロッパとは、全然違うと実感。一回行って、自分の足で歩いて、その違いがわかりました。今度は個人で行ってみたいですね。

佐藤／私も！

渡辺／また、必ず行きます(笑)。

下権谷／今度はナビゲーター役で(笑)。

まだヨーロッパを訪れたことのない人に、いろんなところを案内してあげたい。

宮本／僕はドイツ語の授業をとっているの、今度はオーストリアのウィーンかドイツに行きたい。

田中／自由時間のある学生のうちに海外へ行つて、いろいろな刺激を受けて、大きくなってください。

司会／本日はお忙しいところお集まりいただきまして、どうもありがとうございました。それぞれ、またいい旅行ができるといいですね。

「続・ハワイより」 ◆池上千春さん

私は元気でやっております。前回は心意氣を書いたわけですが、私のハワイ滞在も、あつという間に残すところ五ヶ月となりました。今回は、Hawaii Pacific Universityについて書こうと思います。この大学は、たぶん世界一、人種の入りに混じっている大学です。アジアの学生も、北朝鮮からベトナムまでと本場に一瞬アジアにいるのかと錯覚してしまいます。ヨーロッパの学生も、スイス、スペイン、ロシアなどさまざまな人と出会うことができます。その反面、英語コースのうちは、どうしても国ごとにまとまってしまい、そこが欠点と言えます。しかし、さまざまな国の文化が学べて、とてもおもしろい大学です。特にトラベルビジネスの専攻に人気があります。私も残る月日を大切に勉強して帰ります。



長いようであまり短いアメリカ留学生生活の二年間、私は一体何を学んで、何を学び、何を感じたのか？たぶん、一言で短かすぎで、うまく言えない。それは、ここでの生活は、平凡な毎日の連続と新しい発見の日々である。なぜ平凡な毎日であるかと言うと、勉強中心の生活パターンであるからである。朝に学校へ行き、夕方に家に帰り、ごはんを食べ、宿題をする。ナイトクラスやレポートのために、夜の八時や九時に疲れ切った学校から帰ってくることも珍しくはない。しかしながら、文句を言いつつも、勉強を楽しんでいる私である。新しい発見とは、知らないことを知ることである。英語はもちろん、日本語、コンピュータ、アメリカでの生活習慣、各国の文化や料理等々、私の無知は恥ずかしいが、毎日のさまざまな小さな発見に驚きと興味を感じる。また、ハワイ州だけでなく他の州を訪れた旅行のおかげで、ますますアメリカの大きさに魅せられてしまった。そして重要な発見は、自分の将来の青写真が見えてきたことである。

今、私はハワイを去る日が刻々と迫っていて寂しいが、帰国する日を心待ちにしている。その前に、ハワイでの最後の勉強をこなしてはならないし、帰国前にする旅行の計画作りに心浮き浮きしながらも忙しいのである。

最後に、私のしたいことが出来るのは両親のサポートがあるからであり、とても感謝している事を付け加えたい。

バドミントンと貿易ビジネスをしっかりと学びました

◆タンスーレンさん
(四年生・一九九二年度入学)



楽しんでいます、函大生活!

函館は、母のふるさと。だからこの街で暮らしているいろんなことを学んでみたいと思っていました。多くの日本語は、教科書よりも、いろんな友達から身につけたもの。札幌の日本語学校で一年間基礎を学び、あとはここにきて、仲間と飲んだり食べたり遊んだりして覚えたのです。その分、専門書を読むのは苦労が絶えません(笑)。学生生活は、高校時代からやっていたバドミントンに夢中でした。部のみんなと合宿したり遠征したり、辛いこともあったけど、今はいい思い出になりました。

もちろん、勉強もがんばりましたよ(笑)。とくに試験の前は必死。理論よりもとにかく暗記だー!という感じもありましたけど(笑)。いま、就職活動の真っ最中ですが、日本で就職するか、シンガポールで就職するか、まだわかりません。どちらでもいいと思っています。いろんな可能性を試してみたいと思っていますから。

バドミントン部の後輩たちよ、あとは頼んだぜ!

受け入れ留学生便り



ような気がします。後は、やはり商学科の学生なのだから、ビジネスのことをちゃんと勉強しなくっちゃ。

日本語の力がつくほどおもしろくなる函館生活

◆ハワード・シャロー(姉妹校交換留学生)

いま、ローラーブレードに凝っています。休みの日には、公園で一人で特訓しているの。うまくなったから、キャンパスでビュンビュンのりたいな。函館に来て八ヶ月くらい。みんなの話もだいたい分かるようになってきたし、とてもおもしろくなってきました。最近の私のヒットと言えば、なんと納豆を食べられるようになったことでしょうか。ちゃんと海苔やからしを混ぜてね。最初の三ヶ月は寮にいたのだけれど、今年からはホームステイをしています。中学生の兄弟(妹)がいるご家庭で、とても良くしてくださいます。みんな大好きな奥田先生のCDを聞いたりしています。私が休みの日とかに思いきり寝坊しても大目に見てくれるし(笑)。

大学では、S.L.(教養ゼミナール)が一番おもしろい。十五人くらいのクラスで、日本とアメリカの文化や考え方の違いについて、いろいろな意見を出し合ったりします。自己紹介するだけでも大変。生まれたところや育ったところが違う人が出会うとこんなに面白いの!という感じ。日本や中国の歴史にも興味があって、勉強を始めた。函館大学はマンモス大学ではないので、先生や仲間ともちょうどよいスタンスでつきあえるような気がします。

改革ビジョン

こんにちは。学生課です。

学生課は、学生諸君と毎日接しながら、より充実した学生生活をおくってもらうためにさまざまなサービスを行うセクションです。また、それは一面で生活指導という要素とも不可分なものとなります。このページでは、学生課の仕事についてご説明しましょう。

学生部長・教授 溝田春夫
課長 宮腰泰直
課員 山田陽子
課員 島田みえ



部活のエネルギーは函大のエネルギー

函館大学は、課外活動の盛んな大学としてつとに知られています。現在、同好会を含めると体育系・文化系あわせて四十ほどの部があり、およそ半数の学生が何らかの部活に入っている活動を楽しんでいます。ゼミや講義だけでは得られない体験や出会いが得られるこうした活動のさらなる振興のために、学生課では、設備の整備や予算計画など、側面からさまざまなサポートを行っています。合わせて、部活だけでは限りませんが、保健室の拡充なども、現在検討を重ねています。

また、下宿やアパート、寮の紹介も春先の大きな仕事です。現在学生は、朝・夕の二食がついた下宿が三十軒程度、自炊のアパートが二百軒以上を利用しています。函館のアパートの相場としては、バス・トイレ・キッチンをついたワンルームで月四〜四万五千円程度、といったところでしょうか。

大人としての社会マナーを身につけてほしい

私たちは、学生諸君をまず精神的に自立した大人として見たいと考えています。ですから、時に大人の市民としての良識やマナーに欠ける場合は、これを改めるように指導しなければなりません。アパート暮らしでゴミの曜日を守らないとか、夜に飲酒しながら仲間と騒ぐとか、路地に駐車違反をするといったケースです。そして、なんといっても特に気を付けるのは、交通安全。マイカーを持つ学生が増え、命にかかわることですから、どうしたって真剣にならざるをえません。警察の方をよんで安全講習会を開いたり、学生会や市民の方から標語を募集してそれののぼりを作り、学生駐車場に立てるとか、大学祭でパネル展を開くなどして、つねに注意を呼びかけているのです。

大学生になるということは、高校までの生活と比べて大きな自由を手に入れることといえるでしょう。しかし当然ながら、そうした自由の裏には、さまざまな義務や責任もついてくるものです。学生諸君には、そのところを心してほしいといつも願っています。

新奨学金制度が発足

また、今年度より二つの奨学金制度をあらたに設け、実施することになりました。「野又貞夫奨学金制度」は、学園の創立者であり



●溝田春夫



●島田みえ



●山田陽子



●宮腰泰直

本学の初代学長でもあった野又貞夫先生の功績を永く顕彰するために設けられたもの。「大沼平八郎奨学金制度」は、野又学園の理事であり、(株)ジャックスの顧問でもある大沼平八郎先生からのご寄付を基金として実施されるもの。採用枠は前者が三名、後者が一名で、給付額は月額三万円、期間は一年間となっています。これにより従前の函館大学学業関係特別奨学金制度および函館大学特待生制度と合わせて、本学の奨学金制度の一層の充実が図られることになりました。

教員インタビュー

研究室から

教員の研究の今を、インタビューでお伝えします。

【著書名】
財務諸表論

(函館大学北海道産業開発研究所研究叢書第6巻)

◆教授 新谷典彦

◆出版のいきさつは。



先輩たちの理論と自分の教壇での経験から生まれた、いわば講義ノートを一冊の本にしたものです。企業が報告する決算書類(財務諸表)を理解する上での入門書です。日本が戦後、驚くほどの復興を遂げた世界経済大国になったのは、企業会計のシステムがよく浸透したことも理由のひとつにあげられるでしょう。そうした意味で、学生諸君には、これで企業会計の基礎を身につけてほしいと思います。

◆全体の構成は。

全ての企業が従うべき「企業会計原則」を中心に、会計に関する諸規則としての「財務諸表規則」や「商法の計算規定」および「計算書類規則」との関係で行われる制度会計についての概説を試みました。また、具体的な事例としての有価証券報告書を使用させていただきました。

◆はしがきで、恩師についても書かれていますね。

指導教授の中西旭先生は、退職後も、簿記の源流を遡行する大きな研究をなさっていました。先生は、先生の薦めと励みがあり、また特に産業開発研究所長の河村博先生からは叱咤激励と機会をいただき、やっと思書することができました。感謝しています。そういう意味では、自分が受けてきたご恩を、今度は自分が若い人たちに返していくということになるでしょうか。学問とはすべからず、そうしたものです。もちろん、新しい酒は新しい革袋にいれなければならないかもしれませんが。

【著書名】
時間の心理学 (近代文藝社)

◆助教授 赤松潤

◆生活時間の使い方は、時代とともに変化していきますね。



昭和二十二年から行われているNHKの国民生活時間調査で戦前と現在を比較すると、地域を問わず、なんといっても労働と睡眠の時間が減ってきているのが目につきますね。昔の農村地域では、一日二時間以上働いて、残りから睡眠と食事や家事の時間を引くとほとんど何も残らない。それがいまでは、例えばレジャーの時間が大幅に増えた。この本では、そうした変化や現象を多面的に考察してみました。

◆時間とレジャーの関係が気になります。

昔のレジャーは単一的でしたが、いまは非常に多様化しています。海外にははるばる行って、なにもしないのんびりするなどということは、ひと昔前なら理解できない行動でしょう。また一方で、隆盛するレジャー産業に従事している人たちの労働条件は悪くなっているともいえる。就職の面でもその影響がうかがわれます。

◆時間を切り口にした商品もありますね。

高度成長期には、タイマー付きの炊飯器とか洗濯機とか、時間節約型の商品が数多く登場しました。いまは効率だけでなく、時間を楽しむ方向の商品が出てきています。例えば車なども、乗っている時間そのものを味わうような意味あいが強くなっている。どうやら時間という概念自体が変化しつつあるようですね。

【博士論文】
会計情報システムの構造分析に関する研究

◆助教授 若松裕之

◆論文の背景は。



貿易や金融の自由化など、時代が大きく動いている中で、会計が提供する情報機能もまたそれらに対応しなければなりません。中世イタリアの複式簿記の登場、一九世紀イギリスの原価計算の発達、二〇世紀アメリカの原価計算の発達、公開の制度化など、時代が新しい会計を求める局面というものがあります。そしてコンピュータの発達によって、われわれの会計には、いまのような大きな変革が求められているのです。

◆具体的にいきます。

会計情報は、いまはひとつの目的のためにほとんど税務署と株主のために作られているといえます。しかし、コンピュータ会計をさらに進化させることによって、例えば利益にも多様な尺度を持たせることができる。そこでは、顧客や従業員が利用できる会計情報というものも出てくる。つまり複数の会計情報が創造的に並列できるのでは、と考察しています。

◆新しい論点を提示したわけですね。

この分野は、理論が実務を追いかける部分が多いのですが、実務に先行する理論づけを、という意気込みで書きました。汎用性の高い、新しいコンピュータ会計の理論化ですね。昔は、会計といっても簿記会計しかありませんでした。そういう意味では、会計という制度自体、時代によって大きく変わっていくものなのです。

函大商学論究

函大商学論究 (第27巻 第2号)

〈未掲載論文〉

- ①「不法行為」教授 清水雄史 ②「ジェントリーの形成とその経済活動に関する考察」教授 石井晋良
③「広告表現に関する研究-1-「意味」の表現とその解釈について」助教授 赤松潤

【論文名】
本支店間の未達取引処理

―簿記テキストの説明方法の再検討―

◆助教授 片山郁夫

◆論点をお聞かせください。

中級以上の簿記テキストで扱う、特に本支店間の「未達取引」の処理の説明方法について論じてあります。実はこの部分の説明がテキストによって大きく異なり、学修者をとまどわせているのです。



◆異例的には?

一般に本支店間の未達取引の処理を説明する場合、帳簿記録上の修正か財務諸表上の修正かという、時間的に直列的で二者択一の視点に立つのが一般的です。ただ、処理方法を説明する次元が帳簿記録なのか財務諸表上のいずれなのかあいまいなテキストが多く、それが学修者および教育者の双方にとって理解のしづらさおよび説明のむづかしさの原因になっています。しかもそれは処理方法の違いとそれを説明する次元の違いとが相まって生まれたのではないかと考えたのです。問題は、本店固有の貸借対照表を本店の帳簿記録のどの部分から誘導するかが、学修者にはつきりと理解できる形で説明できていない点にあります。本店独自の純損益を振り替える過程で仮の決算残高a/cを設定しなければ説明が一貫しないのです。そこで、決算残高a/cに代えて残高試算表を利用して説明する複数の改善案を出してみました。

◆このテーマを選んだ理由は?

これは、実は私が学生時代から引きずっていた疑問のひとつでした。とことん追求して、いまは一応すっきりしています(笑)。

【論文名】
函館地区企業の労働時間に関する実証研究

◆助教授 大江田清志

◆函館地区の企業調査データをもとにした論考ですね。

ええ。一九九三年の一月二月に実施した調査データがベースです。有効回答六十一社を、規模別、産業別等に分類して、全国統計と比較検討しています。



◆この地区の労働時間傾向は何でしょう。

観光都市の宿命でしょうか、サービス業の労働時間が、全国平均を大きく上回っています。全体の週休日数と年休の取得率も全国平均よりも低いですね。また、積雪期を持つ北海道特有の傾向で、建設業では逆に下回っています。一方、今後の検討課題の認識としては、景気の低迷下では難しいものがありますが、特に土曜完全週休制を確保することにより、所定労働時間ベースで一八〇〇時間を達成することです。

◆提言としては。

欧米並みの週四十時間労働を実現させるためには、例えば経営側が週休日を増やす見返りとして、労働側も一日の労働時間を若干延長するとか、業務の少ない曜日に輪番制で週休日と設定するとか、業種によっては、冬期は週休三日、夏の繁忙期には週休一日にするといった現実的な互譲が必要になるでしょう。それらはつねに労使協調による改革でなければなりません。さらにもちろん、労働から解放された時間をどう使うかといった、生活の質の問題も見据えなければなりません。

【論文名】
個別資本循環と資本維持概念

◆専任講師 今井敬博

◆テーマについてお聞かせください。

会計学の中心課題である利益計算と資本の基礎概念について考察しています。企業の損益の基準になるものは、言うまでもなく維持されている資本です。それを、最初に投下した名目貨幣資本で考えるか、その時点で保持している財(実体資本)で考えるか、といったことでもさまざまな問題点が浮上してきます。そうした資本維持概念の問題を、個別資本循環の研究との絡みで考察しました。

◆個別資本循環についての研究とは?

ビジネスの各局面で実践される簿記会計の記録計算方法を統一的に説明して、その経済理論の根拠を明らかにしようとする研究です。そこでは、それを自己完結的なものとして考えるか、社会制度的な条件に依存するものとするかといった立場の違いがあります。

◆マルクスに依拠しての考察が進められていますね。

主に「資本論」第二巻第一篇の記述を基にしています。マルクスによるという名のもとに「批判会計学」とか「理論会計学」とかいう学派が我が国にあるのですが、その中の中心人物の学説を中心に検討しました。

◆この論文の最大のポイントは?

いわゆるマルクス主義というものは「科学」であるというのですが、何故その観点に立つのかということについては、私の場合資本維持感についてですが、根拠が論理的でないように思えることです。



【論文名】
高度成長期塩化ビニル工業の原料転換と産業政策

◆専任講師 寺田隆至

◆論文のテーマについてお聞かせください。

昨今、規制緩和という言葉をよく耳にしますが、これまで日本の諸産業には、政府のさまざまな規制・助成政策が実施されてきました。この論文は、高度成長期の塩化ビニル工業を考察したものです。

◆塩化ビニル工業をとりあげたのは何故ですか。

実は、高度成長期の石油化学工業は、産業政策の失敗例と見ることが出来ます。というのは、「企業の集約化」という政策意図とは正反対に積極的な投資行動に出る企業が続出し、石油化学コンビナートも乱立したからです。そして、この「失敗」に関連して重要なのが塩化ビニル工業政策だったと思われるのです。「失敗例」に学ぶべきは何か、というのが私の問題意識でした。

◆塩化ビニル工業政策はどのような役割を果たしたのですか。

重要なのは、一九六〇年代後半に塩化ビニル工業に対する投資規制の緩和が見られたことです。この時期、企業側は、塩化ビニルを主要製品に組み込んでコンビナートを建設する、という同質的な行動を展開したのですが、これは、先の投資規制緩和の中で可能になったという感じが強いのです。

◆論文のポイントは?

これまでの研究には、政策の実施過程で企業がどのように対応し、その結果として何が生み出されたのか、を明らかにしたものは少ないのです。その点に踏み込んで考察しました。



ゼミナール紹介

気になる田高を徹底考察してみよう



貿易論ゼミナール
◆教授 高月晋

国境を越えた商取引、つまり貿易の基礎的な概念や実態を考察しようという国際派のゼミ。しかし、入り口はぐっと身近で、いま日本経済を大きくゆさぶっている円高の問題をさぐるために、各自がアメリカの通信販売を利用して個人輸入をしてみようというところから始めました。「世界の生きた経済や商業を学ぼうというのがテーマです。まず個人輸入をすれば、今日の円とドルの関係が実感として理解できずからね」と高月先生。そこから、なぜだろう、という仕組みでこうなるのだろうなどという疑問が自然に湧いてきて、体験としての学習が始まります。ポスト冷戦時代。国際関係は、よりダイナミックに流動化しつつあります。ゼミ生は、卒業後にビジネスの世界に入ってもすぐ実務に対応できるように、基礎的な知識や思考力をいまいっさり身につけてようとしています。分かりやすさに定評のある高月先生のトークにものせられて、みんな、めざすは国際通!

Seminar



パソコンで都市をシュミレートしてみよう

都市・地域経済学ゼミナール
◆助教授 西村淳

例えば交通渋滞、地価の高騰、財政蔵入の伸び悩み、公共施設の不足といった、都市が直面しているさまざまな問題を捉え、これらを経済学の方法で分析していこうというゼミ。といってもこれらを文献の輪読やフィールド調査でやるのではなく、パソコンによるシュミレーションでやっちゃうというの。とびきりユニーク。「シムシティ」という人気のシュミレーション・ゲームがありますが、原理的にはあんなに自分でも、各自がプログラムを組んで自分です」と、いつも明るくノリの良い西村先生。それが、人口三〇万人の仮想都市H(?)をパソコン上で作って、道路や公園を整備したり、税金のレートを変化させたり企業を誘致したりして、都市の成長のメカニズムをなぞります。地域経済とプログラムが両方マスターできる、ひとりで二度おいしい人気ゼミなのです。



コンピュータで商売しよう

情報システム論ゼミナール
◆専任講師 津金孝行

今日の企業経営では、情報を制した企業が勝つと言われています。そこでは、コンピュータによる情報処理が欠かせません。また一方でファミコン、ワープロ、電子炊飯器、インバータエアコンなどコンピュータを応用したさまざまな新商品の登場が見られます。それらについて考察するのが津金ゼミです。コンピュータを理解するためには、まずコンピュータに触れてみるのが重要です。そこで、津金ゼミでは、最初、プログラミングの基礎を体験します。そして、徐々にシステムの設計方法や経営、新商品への応用方法、さらにコンピュータが社会に与える影響などについて勉強します。「プログラミングの基礎を学ぶのは、コンピュータと友だちになるためです。その上で、コンピュータをキーワードとした商学研究に挑戦すると、スムーズに研究が進められます。商学研究とは、例えば、マルチメディアのもつ社会的意味合いや将来性を探究していく、というような」と津金先生。文献の研究からソフトづくりまで、商学とコンピュータの重層的な交点で、ゼミ生は、マルチメディアをバリバリ使いこなせる、これからのビジネスマン＆ビジネスウーマンを目指しています。



ビジネスに直結した実務感覚を身につける

手形法・小切手法ゼミナール
◆講師 田中三夫



手形・小切手の仕組みを理解して、それらが現実の経済社会においてどのような機能・役割をはたしているかを学ぶゼミです。商取引の決済手段としてビジネスに直結した存在であるだけに、法理論に終始することなく、銀行や手形交換所を実地に見学し、それらが実際にどのように利用されているか実務感覚を身につけます。田中先生は金融法務の実務家で現役の銀行マン。手形・小切手は銀行取引と密接な関係があるだけに、現実の商取引でどのように利用されているか、教科書にないノウハウを伝授したいとのこと。「手形法・小切手法は技術的な法律で、とりつきにくい印象を与えがちですが、手形・小切手そのものは極めて実務的な存在であるだけに、実業界を目指す学生諸君にとつて必須知識の一つであると思いますね」と先生。また、「ゼミを通じて知的な好奇心を高めたこと。楽しいゼミにしたなど、いろいろ考えます」。



新任 教職員 PROFILE

はじめてまっぴーはひびくつゝます。



十七年ぶりに帰ってきました

◆専任講師 山田康夫

「高校まではずつと函館。そのあと東京で十七年(うち、一年間はアメリカ)暮らして、今回、ほんとうに久しぶりで帰ってきました。途中何回かは来てましたけど、大門が駐車場だらけになってしまったあととか、浦島的な感慨はありますね。東京ではいろいろな大学で英語を教えた山田先生。英語教育に特に力を入れる近年の函館大学の、カリキュラム強化の一翼を担います。先生の持論は、大学生であれば英語はマスターして当然!「講義では、文法をおさらいしながら、時事英語なども取り入れていきます。世界のビジネスを学ぶ商学科であればなおのこと、英語はしっかりやってほしい。やる気さえあるなら、ばくが何とか引張って見せます」。プライベートな部分では、子供の頃のようにスキーを再び楽しみたいとか。「安くておいしいお店とか、教えてください。それと、一九六〇年生まれで、西暦二〇〇〇年までは結婚したいので、そのあたりもよろしく...!」(笑)。

世界経済のダイナミズムを教えていきたい

◆専任講師 佐藤元治

東京とニューヨークにしか住んだことがなかったという佐藤先生は、四月から露天風呂に温泉が湧く快適なマンションで、初めての函館暮らしをスタートさせました。この春までは、大手証券会社の外国人投資家向け証券アナリストとして、世界経済の最前線にいた佐藤先生。ニューヨーク大学のビジネス・スクールに企業留学していたときは、世良先生と席を並べていたそうです。「証券アナリストの仕事は、とにかくハードでした。とても充実した毎日でしたが、心身の消耗も激しくて...」。「講義では、そうした経験を活かして、例えば外国人投資家や世界の競合企業の視点などから日本の企業活動を探索してみたり、いろいろな切り口を設けたい。学生諸君には、生きていく経済のダイナミックな面白さを伝えていきたい。とにかく積極的に早く大学に慣れたいですね。遠慮していると時間がもったいないだけですから」。



みなさん、もっとも図書館を利用しましょう!

◆図書館員 一戸あゆみ



この春から図書館のカウンターにいるあの女性是谁?という疑問にお答えしましょう。お隣の函館短期大学をこの春卒業したばかりの一戸さんです。「函館大学には短大時代から昼休みなどによく来ていたので、違和感はないんです。本が大好き!という一戸さんにとって、図書館はびつたりの職場。こちら違和感がなさそうです。「仕事は、貸し出しや受け付けのカウンター業務。いまは覚えることがありすぎて必死、という感じですが。業務内容はもちろん、先生たちの顔と名前をはやく一致させなければなりません。お昼休みは混雑しますから、特に忙しいのです。それと、四年生は私より年上ですから、ちょっと緊張しますね」。エアロビクス・サークルのマネージャーとして短大時代に磨いた元氣とフレッシュな笑顔で、図書館のさわやかな風となってください!

元氣パワーでがんばるぞ!

◆学生課員 島田まみえ

学生課の「ハッキリ娘」島田さんも、このあいだまではお隣の短大生。春からは、第二事務室の窓口で学割や証明書の発行の仕事をしています。学生と最も日常的に接する持ち場です。「証明書を申し込まれて、なんだか不愛想な人だなあ、なんて思ってしまう学生さんもいますけど、考えてみれば私も学生の時はそんな感じだったかもしれない(笑)。乱暴な車に腹を立てている歩行者が、ドライバーになれば同じように乱暴な運転をしてしまふ、みたいな感じでしょう。高校時代は、バレーのエースアタッカー。特に高校のとき、全道ベストエイトまでいったのがいい思い出。現在もクラブチームで毎週プレーし、去年は大阪の全国大会まで行ったという、根っからスポーツ・ウーマン。「人と接しているのが好きな性格なので、いまの仕事はとてもやりがいがあると感じています。職場に入って実感することは、責任の重大さですね。宮腰課長、ばりばり頑張りますから、びしびし鍛えてください!」(笑)。





◆教授 石井晋良
ダーツをしに、研究室に遊びに来ませんか

研究室におじゃまするとまず目につくのが、本格的なダーツ・ボード。「ゼミの学生たちとやったりするのです」。初めて来た人に対しても、ダーツでもやりながらコミュニケーションしましょう、という先生の気持ちがうかがわれます。「知らない人にやらせると、やっぱり真ん中を狙うんですよね」と言いつつ投げようとしていますが、それではダメ(笑)。ダーツは、各自に持ち点があって、挙げたポイントをそれから引いていくゲーム。最少の回数でピタリゼロになった人が勝ちです。一番高い得点は、一投で六十点のワク。一番ポピュラーなゲームがスタンダードゲームで、持ち点をダブルスタートとダブルフィニッシュでゼロにするゲームです。学生たちとは、独自のルールを作って、ダーツで野球やゴルフをやったりもするそうですから、研究の合間の楽しそうな雰囲気うかがわれますね。

三六五日、(仕事と)テニスのことしか頭にない！

◆総務課長 大山紀明

おだやかな笑顔の下にかくされた素顔は、(仕事と)テニスのことで夢中な少年(？)。中学校二年から軟式テニスを始め、函館大学三年生の時に全道選手権ピオンの座を獲得(後年、その座は後輩の黒澤・現教務課長が引き継ぎます)。軟式のキャリアは、二十代半ばで黒潮(千葉)国体北海道代表選手を務めたときまで。その後、競技選手としてのこだわりを捨て、硬式に転向。市民プレイヤーとしてテニスをここから楽しむ毎日です。といっても、大山さんのテニスは勝つことがなよりの前提。現在、函館市の協会ランキングでは、シングルス一位、ダブルス三位。大会のたびに増え続ける賞状は百枚以上とか。「自由時間があればとにかくコートに立ちたい。私のテニスは、パワーと攻撃。これだけです。いくつになっても、人より速い球を打ちたい！という気持ちだけ」。こんなに夢中になれることを、しかもご夫婦で楽しんでおられるとは、なんともうらやましい限りです。



北海道のミスターハンドボール

◆助教授 松喜美夫

函館大学の顔のひとつが、現在道内十七連覇を続け、東日本インカレの有力上位チームであるハンドボール部。この部を作り育て上げたのが、松先生です。現役時代は、日本大学の中心選手として活躍。全日本学生選抜選手、関東学生リーグ戦では得点王にまでなったキャリアの持ち主。近年は、函大監督のほか全日本の学生選抜チームのコーチの重責も果たしています。「遠征や協会の仕事で、年に百二十日は家を空けています(笑)。選手時代からハンドボールを通して、世界を見て歩いてきました。だから、ヨーロッパ、ロシア、中国、韓国と、言葉はわからなくても友人はいっぱいいます(笑)。私は、経験主義者かもしれない。勝った人間にしかわからないことや、行った人間にしかわからないことが、世の中にはたくさんあると思っています。とにかくチャレンジしなければ」。まるで、「ハンドボール」という言葉を辞書で引いたら「松喜美夫」と出ていそうな気がしてきます。



頼れる存在
教務のテキパキマシーン

◆教務課 荒木弘子

「函館大学の女性職員には函館短期大学のOGがたくさんいますが、そのお姉さんの存在が荒木さん。今年で八年目。ずうっと教務で、学生の成績のデータ管理や、先生からの学生への連絡指示、講義の準備のお手伝い(プリントを印刷して揃えたり)などをしていきます。そして例えば、「大学では、春先に会合(つまり飲み会)が多いんです。湯の川でやるときなんかは、帰りにひと風呂浴びて帰っちゃうなんてこともありますよ(笑)」などといったコメントが、ベテランの余裕を感じさせます。中学校時代はバレーボール、高校になってバトミントンとスポーツに熱中していましたが、最近は散歩ぐらいしかカラダを動かす機会がないと残念そう。休みの日は、高校や短大時代からのお友だちと会ったりすることが多いそうです。実はここでは書けないマル秘の習い事をしていて、それが、詳しくは直接本人にお問い合せください。



メディアとしての
マンガの可能性について思う

◆専任講師 今野昌信

最近おもしろいと思っていることは、という質問に対して。「戦後の手塚治虫から近年の宮崎駿まで(いわばアトムからナウシカまで)を見て、いまマンガというメディアの持つ可能性や可塑性に、改めて感心したりしています。例えば、巨大なシステムとしての社会に内部から対峙しなければならぬ個人の問題や、ひとつの極限状態の位相にある都市文明、激しい負荷がかかった状況の中の友愛といったことなど、マンガの方がある種のリアリティを持って問題提起をすることができるときがある。超個人主義としての超能力とかね。明治・大正時代なら文学でしか到達できなかった問題群に対して、今ならマンガもある、と言えるのでは。つまり、「方法としてのマンガ」ですね。いろいろな意味で、何が起きてもおかしくないような時代です。マンガの一種アナーキーな表現力や追求力は、十分にこれからの学問の領域に入ってくるものだと思います」。



旅は若者を育てる

◆講師 吉岡正敏

語学教師として、フランス語や英語やロシア語の世界を毎日行き来している吉岡先生は、語学の上達法について「まず、その国の文化を好きになること」とおっしゃいます。先生自身、そうした気持ちでずうっと学ばれてきたとか。「長いこと、各国語のことわざを研究しています。ことわざには、その文化のエッセンスが生きていますから、やればやるほどおもしろい。なるほど先生には、『フランス語ことわざ集』と『ロシア語ことわざ集』という著作があります。『旅が好きで、以前フランスで九月ほど暮らしたときは、週末の休みにいろいろな地方に行きました。先々のレストランで名物料理と地元ワインを楽しむのです。楽しかったですねえ』。『フランスに、こんなことわざがあります。『旅は若者を育てる』。若いときは、いろいろな所について、いろいろな経験を積むべきだ。それが若者の特権なんだ、という意味です。が、この言葉を、学生諸君に贈りたいですね」。

お元気ですか？

想い出往来

野又学園名誉顧問
●函館大学名誉教授 佐藤 裕



平成七年四月一日、私の職業は五十年近く続いた教員から無職へと変わり、毎日が日曜日という気楽な身分となった。これからは、晴耕雨読の生活が続くはずである。晴れた日には、百坪ほどの畑で無農薬の野菜作りを楽しみ、雨が降れば、寝転がって手当たり次第に推理小説やら恋物語やら読みとばし、気が向けば、パソコンのキーをたたいて、あまり実用とは縁のないグラフィックやゲームのプログラムを作成して遊ぶ。そういえば、コンピュータとの付き合いも、かれこれ二十五年近くになる。全くの独学で始めたコンピュータへの挑戦であったが、いち早く大学への導入を推進したことは、些か先見の明があったと自負している。

現在の函館大学の電算機は三代目であるが、初代は昭和四十五年に導入された富士通のFACOM23010である。大学への電算機導入としては早い方であった。本体は高さ一七〇センチ・幅五〇センチ・奥行が二〇〇センチの細長い箱型で、それぞれ事務機よりやや大きな紙テープ読取機と紙テープ穿孔機、それにキーボードとゴルフボールそっくりのタイピングボールのついた印刷装置が一体になった操作卓を配置すると、一応それらしく電子計算室の雰囲気盛り上がりつつあった。それから十年後に二代目と交替するまで、紙テープに一桁ずつ穴を開け、ゴルフボールをくるくる回転させながら、カタカタと一字ずつ印字して朝から晩まで働いたわけだが、残念ながら、性能的には今のパソコンの百分の一にも及ばないものであった。



の学生のよう
うな人間性
豊かな教養
ある紳士淑
女が育成さ
れ続けている
ことを、
私は誇りに
思う。

野又学園名誉顧問
●元函館大学教員 黒坂正次

「地震の思い出」

今年には不幸なことに大きな災害が頻発している。一月の阪神大震災は、私に一つの感慨を呼び起こさせてくれた。

昭和四十三年五月の十勝沖地震で、函館大学は甚大な被害を受けた。私は当時「簿記」を担当する専任講師として勤務しており、その日は、三階の研究室で講義ノートを作成中だった。地震が起これ、研究室の本棚は部屋の中央部までずれ動き、両手でそれを押さえながら、外へ避難しなくてはと廊下に飛び出した。シケの海で船に乗っている様に階段が大揺れで、どのように降りたのか思い出せない。私が玄関を出た直後に一階が倒壊、暫し茫然と佇んでいたことをはつきりと思い出す。しかし、あれだけの被害を受けたながらも一人のケガ人だけで済んだ事は、本当に幸運だった。実はあの時、三階では三年生が授業中だったのだ。担当の先生が冷静に学生を誘導したのは勿論だが、恐怖で身をすくませて動けずにいた女子学生を、男子学生が必死に助けながら階段を降り、無事避難させたのだ。自分のことで精一杯の状況の中、弱者をいたわり救った男子学生の行動を、その後のゼミのコンパで大いに話してやった。

この学生は、創立者野又貞夫先生の教育理念である「教養ある紳士淑女を育成し、人類社会に貢献する人間教育」を、身を持って実践してくれた。現在でも、函館大学では、この学生のよう



読んだ・感じた・考えた。『読書テーブル』

「小売流通企業の戦略デザイン」



教授 大野和雄

「価格破壊」と「規制緩和」の言葉は、流行語になっている。また、同時に現代社会の経済・流通・マーケティング等の現象と動向を説明するキーワードになっている。すでに五年前に、二十一世紀の展望にたつ『小売流通企業の戦略デザイン』の著作が注目されていた。著者の中内 潤氏は鋭いインベーターであり、理論と実践に深いインテリジェンスを有している。同氏は慶応義塾大学大学院で村田昭治教授に師事され、錬成した俊英であり学会からも注目されている。

本書は、「生活産業化」「国際化」「情報化」を軸に、現代小売業の成長行動を解明している。即ち、一章「消費」を起点として流通システムの構成と動態を捉え、二章「流通革命論から流通産業論への歴史的考察」、三章「小売流通産業の「生活産業化」の提示」、四章「小売企業の戦略的マーケティング・システムの研究」、五章「戦略的情報システムの構築と消費市場を顧客の生活システムと捉え、六章「生活アソートメントの提案」、さらに商業の本質的特性と存立根拠を力説し、七章「グローバル時代の流通産業とシステムの競争動態を明示している。そして、流通システムが、生活サポート・システムとして認識される二十一世紀が到来すると結んでいる。



「小売流通企業の戦略デザイン」
-21世紀への成長構図を求めて-
中内潤著 (プレジデント社)

「陸上競技わが人生」



助教授 三浦俊和

永い間、陸上競技に携わってきた私にとって、陸上競技者の大先輩である織田幹雄氏（第九回アムステルダムオリンピック三段跳・金メダリスト）が、陸上競技をどの様に考えておられるかに興味を持ち、本書を手にとってみた。

陸上競技にあまり科学的な知識が入り込んでいない時代に、ただ自分なりの跳躍を工夫し、日本人の貧弱な身体でいかにしたら世界的選手に近づけるかを考え、自分なりに実験をし、技術の進歩に遅れをとらぬよう努力し、最終的に陸上競技の技術とは、人間そのものの動きであり、そこに科学が協力し、技術の進歩とさらには力の強化を計り得ることが理解できたと思われている。私自身、陸上競技に対しての情熱や技術修得の難しさ、楽しみ、喜びなど、指導を通じて、どれだけの人たちに感動を与えられる事が出来たか等々。再び陸上競技の原点に戻り、考えさせられた一書である。



「陸上競技わが人生」
織田幹雄著 (ベースボールマガジン社)

「全予測日本1995」



助教授 新聞喜美男

ここの二、三年厳冬が続いていた大学生の就職環境に若干の明るさが見えてきたと言われているが、企業はスリムな体質づくりの足を緩めていない。大学生にとってはなお厳しい状況が続くことになりそうである。私事ではあるが、四月から教務部から就職部へ配属となった。そんな時、本書と出会う。少しでも視野を広げ、就職指導にも役立てたいと思っている。

本書の内容は、経済経営を超えて技術・地域・社会に及んでいる。例えば、「日本経済」（平成不況からの回復パターンと今後）では、「今回の景気後退があまりにも長引いた理由としては、景気循環的要因と内外との調整を含めたわが国の経済システムや産業の構造的調整の要因が考えられる。循環要因についてみれば、設備投資、住宅投資、在庫投資の下降が折り重なったことが指摘されるが……（中略）……内外価格差、規制緩和、雇用、円高対応と海外との分業体制の再構築など構造的変革の面では課題が残る。中期的にみて日本の成長は下押しされる。なお、世界経済の回復テンポ、為替動向と金融政策次第では、ミニバブル的な回復局面もありうる」との視点が述べられている。



「全予測日本1995」
奈良久彌監修
三菱総合研究所著 (ダイヤモンド社)

「漱石の思ひ出」



助教授 矢本多美子

漱石が没してから八十年になるというのに、その人気は未だに衰えず、昨年には記念事業として岩波から全集が刊行されている。その一環として同時に出版されたのが、この復刻本である。

雑誌に発表された当時は、読者の予期しない事実などが余りに赤裸々に物語られているところから、非難の声もあったという。漱石に関してはすでにたくさん研究書や評伝があるので、今となつては周知の事柄ばかりの様に思われるが、こうして岩波の手を手にしてみると、思いもかけず新斬りで、また新たに漱石への思いが漲るのである。

漱石とのやりとり、家族のこと、交友関係など数々のエピソードは、二十年間、傍らでつぶさに見てきた夫人の目に映ったありのままの姿であり、想いである。人間漱石が真実の魅力のうちにやさしく語られている。

樋口一葉と大塚楠緒子に触れている件が興味深い。夫人の感想がまたおもしろい。大らかで明るい、明治という時代の忍従などとは程とおい、自由な物言いの夫人を好んだ漱石の大きさがひしひしと伝わってくる一冊である。



「漱石の思ひ出」
夏目鏡子述
松岡護筆録 (岩波書店)

青春記(二)

教授 伊藤結城夫



大学に入
学出来て私
が嬉しく思
ったことは、
受験勉強か
ら解放され
たことであ
りました。

この頃を振り返る時、先ず強い印象として脳裏に残されている事は、食料不足と列車の込み具合であります。しかしリュックサックを背負って、独り旅では旅行の難儀はあまり苦しいことではありませんでした。当時都会では食糧事情の窮乏が酷い有様でした。そこで食糧買い出しの人々が帰省列車の列車内に相対見受けられました。それにしても主食の統制下では、食糧を多量に運搬することは買出し客には出来ませんでした。駅の弁当は全売られておりませんでした。それに乗車して座席に坐することも容易ではありませんでした。

帰省に際して函館駅を連絡船で出発し、青森に到着すると、棧橋からプラットホームまでの長い渡り廊下を乗客が競争するように急ぎ足で越えて、列車に行き着く様子が今でも思い浮かぶのであります。そして旅行の段取りを相談して、一緒に東京へ旅をした友だちのことも思い出されるのであります。

京都から帰省する際にも北陸回りの急行「日本海」に乗車すると、車内通路に既に乗客が幾人か新聞紙を敷いて、座席があく機会を待っていることがありました。戦後四年を経過してありますが、そのような場合でも金沢に到着すると夜明けになっておりまして、降車される方が多少あって、座席に着くことが出来た。その頃では寝台車は二等台車より他は運行していませんでした。京都駅から東海道本線の列車に乗る場合でも、昭和二十三年、四年頃ではやはり途中まで車内通路に紙を敷いて、旅をすることがあり

ました。洗面所はまだ乗客がいっぱいになっていることがあったのであります。

私が大学に在籍していたところは京都大学文学部であります。「日本の歴史」と言う書籍によると、昭和二十三年の十二月十八日には日本の復興の基本方針が「経済安定九原則」としてアメリカ政府よりマッカーサー総司令官に指令され、公表されました。その後昭和二十四年一月の総選挙で吉田内閣の与党である民自党が過半数の議席を占めて、更に保守連携による強力な内閣が望まれて、民主党の連立派と相共に組閣が進められて、第三次吉田内閣は連立内閣として成立したのであります。

私が在籍していた高等学校は府立洛南高等学校でしたので、水谷、田中、小川など各代議士は府立第二中学校の先輩であると言う話を友人より聞かされておりました。それで私も国会議員の選挙には多少興味を抱いておりました。

第三次吉田内閣が成立したのは二月二十六日でしたが、その直前の二月一日にデトロイト銀行頭取ドッジ公使がGHQ財政顧問として来日していたのであります。そしてインフレーションの経済事情を抑制する財政政策所謂ドッジ・ラインが施行されました。この事と関連して税制が問題となりましたので、アメリカから五月十日コロンビア大学教授シヤープ博士が団長となって、税制使節団が来日されました。ドッジ・ラインの財政政策とシヤープ博士勧告による税制によってインフレーションは低下し、財政も均衡を保つようになりました。現今になってこの政策を省みると、その功績は多大であったように思われるのであります。しかしその結果生じた経済事情に批判的な反対運動がかなり起こりました。

学生運動もそれに関連して活発化しておりました。日本の経済的な基盤は脆弱でありました。給料生活者の所得は低く、殆どの人々は食生活に苦しんでいる状態が続いておりました。それにしても政府は海外から食糧輸入に苦慮するような状況でありました。失業状

態の人々も多かったのであります。昭和二十六年の春に中学時代の先生を訪ねて九州へ旅行した折に、北九州の八幡製作所を眺めて、その操業状況を察すると、そこは殆ど火の消えたような状態でした。その様子を車中の人尋ねると、製鉄所の復興をこいねがっていると言われておりました。

しかしながら日本の経済復興と将来への展望では大衆課税の性格が強い税制と通貨の安定が必要であったと省みられるのであります。

それと共に地方自治体の財政事情における較差を配慮して、平衡交付金制度も制定されるべきであったと思われるのであります。

通貨のことを振り返って思えば、私が旧制中学校に入学した頃、授業料は道立校で一ヶ月九円五十銭でありました。昭和二十四年大学に入学した時にはそれが一ヶ月百円でありました。前年の二十三年では恐らく百八拾円であったように思われます。二十四年四月二十五日には一ドルが三百六拾円と交換された単一為替レートが実施されました。そこで比較してみると、国立大学での一ヶ月の授業料は一ドルより安かったことになりました。この事を今日のドル八拾参円何拾銭と連想して思えば、一寸驚かされるのであります。それに付いても戦後五十年間の経済問題が国内にも国際的にも如何に熟慮されて来たものであるのかと、その遅しさに驚歎する程であります。

食糧に関して聞かされた米は六十キログラム、この当時およそ一万円しておりました。しかし大学卒業後の初任給は殆ど就職先で聞かされた六十キログラムの値より低かったようでありました。住居についても借屋でおおよそ一畳につき五百円程度のところが大都市では相当あったように推測されます。煙草もビールが一箱四拾円であったし、お酒は二級酒一・ハリツトルで七百五十拾円でありました。それは大学を卒業して、就職しても自分一人の生活を自分の給料で賄うことはとても困難である状態でありました。私の大学は入学当時の生活を

含めた学費も一ヶ月分では大卒の初任給より多かった程であります。それにしても主食の購入には配給制が施行されていて、食堂では外食券を渡すと甘藷がパンが麺類が、もしくは外来の食物が配られました。しかも配給事情は一ヶ月の三十日分程割り当てられることは殆どなかったようであります。

昭和二十四年には国有鉄道で事件が続いて起きました。下山・三鷹・松川事件が七月と八月にあったのであります。しかしこれが「九月革命説」の噂や国鉄の人員整理通告と何か関連があるのかどうか、私には全く想像も出来ませんでした。街の様子や電車の中でもそれ程不穏で緊張した雰囲気は感じられなかったからであります。

しかしながら昭和二十五年六月二十五日朝鮮半島の三十八度線で南北両陣営による武力衝突が勃発したのであります。このニュースを知った時、私はこれが政治上の内乱でなかろうかと思いましたが、ところが国連軍からジェット機が出撃し、北朝鮮からもミグ戦闘機が出撃し、ナバーム弾が野戦を襲う凄じい戦いが出現したのであります。第二次世界大戦後およそ五年を経て、そのような激烈で惨憺な戦争が生じようとは思ってもよらぬことでありました。世界平和の実現は戦乱と共に進んでいなければならぬと、現実認識を改められました。そこで私は度々反戦的なことを言い、平和運動に加わりました。この戦いは一年間程で昭和二十六年休戦となりました。

昭和三十四年秋には中華人民共和国が成立しました。それからアメリカの対日講和条約案の起草が進められておりました。それが全面講和であるのか単独講和であるのか、議論が新聞や雑誌で随分論じられておりました。私にとって熱心に雑誌を読む機会も多くなりました。やはり全面講和と国際中立は希望の将来像でありました。しかしそれは戦後の日本が遭遇している事情ではこの当時難しいことでありました。ともかく日本の独立と共に新たな状況を開く岐路に辿り着きました。

(完)

エキゾチックな教会などが並ぶ元町と合わせて、函館の代表的な観光の顔となった、函館港の周辺、ウォーターフロント。そのまちづくりの先鞭となったのが、一九八六年に（株）魚長食品がオープンさせた「はこだて明治館」でした。これは明治四十四年に建てられた旧函館郵便局を改修してガラス工房やアンティークのオルゴールショップなどを作ったもので、歴史と港を売り物とする今日の函館観光の方向を決定づけたプロジェクトでした。その後ウォーターフロントには、金森商船の「函館ヒストリープラザ」、西武グループの「BAYはこだて」などが相次いで進出し、魚長食品も「はこだて海鮮市場」、「第二明治館」、「函館西波止場」をオープン。九四年に開業した「函館西波止場」は、快適な環境色彩をつくり出している施設に与えられる「公

国際観光都市を担う、ウォーターフロントの顔づくり



函館企業訪問

「生まれは静岡県です。しかし終戦直後、一家でこちらに移り、子どもの頃から両親の魚屋の手伝いをして精いっぱい働いてきました。だから私の中には、自分を育ててくれた函館のために何かをしたい、という気持ちが強くあるのです。国際観光都市としての発展をめざす函館。そこで、観光事業に投資することはこのまちの魅力づくりに投資することにもなります。『函館が『百万ドルの夜景』を売り物にしていたのは、一ドルが三百六十円の時代です。いまは価値もだいぶ落ちていくでしょう（笑）。これからは、そうした与えられた自然の資源だけに頼らない創意や工夫が不可欠だと思います。過去は大切だけれど、それに縛られてはいけません。現在、シンガポールとの交流をすすめる、観光立国の先輩からいろいろなることを吸収していこうと考えています。函館はまだまだ魅力的になりますよ。」



代表取締役社長 柳沢 勝

共の色彩賞」を、北海道でただひとつ受賞したのを始め、日経アーキテクチュアルカレンダー八月分で写真が掲載される等、全国に紹介されています。柳沢社長は、道南の経済界を代表する企業家であり起業家。「一九六七年、まだ二十代で出店し、鮮魚・冷凍食品の販売会社を始めました。その後、デパートや大手のスーパーなどでの鮮魚小売りや卸で業績を拡大。これを基盤に、観光や不動産などに事業を広げていったのです。魚長食品は、ホテル函館口イタル、函館スパビーチ等、十一社からなるマルカツグループの中核企業として急成長を続けています。

誰よりも函館が好きだから

私の函館散歩

「私の好きな函館」
ブライアン・ダッフ（専任講師）

I was asked to write about my favorite place in Hakodate. But because I have only lived in Hakodate for a short time, it is difficult for me to say that I have only one



favorite spot in town. On the contrary, there are many places I like to go and see. For example, I have enjoyed touring the historical buildings around Mount Hakodate and watching the night view from the top of the mountain. I have also enjoyed going to Goryokaku park with my friends to play sports or have a picnic and watch the cherry blossoms. I also enjoy driving around town to visit friends and driving outside of town to places like Onuma Park during the warm seasons or going to nearby ski resorts in

the winter. I also enjoy shopping around areas like Goryokaku, in front of Hakodate station and along "sangyou dooro". But most of my free time is usually spent at my home in Kawaharacho where I try to do various things to relax and spend some time studying Japanese. That's how I make living in Hakodate more enjoyable.

「四稜郭について」
水谷 健（四年）

明治2年春、旧幕府脱走軍が、新政府軍の攻撃に備えて各地に防御壁地を築いたが、五稜郭の背後を固めるため、その北方3kmの緩斜面台地に洋式の台場を急造した。これが、「四稜郭」である。

「四稜郭」は、蝶が羽を広げたような稜堡で、



郭内に建物はなく、その4つの突角にそれぞれ砲座をめぐらせ、その周囲には土塁と空壕をめぐらせたものであった。

明治2年5月11日未明から始まった函館総攻撃の日、新政府軍の岡山・福山・徳山の諸藩兵は四稜郭を攻撃し、苦戦しながらも幕府脱走軍を五稜郭へと退却させた。

現在「四稜郭」は、函館市陣川町に、国指定史跡としてその姿を留めている。5月には桜が満開になり、函館の街を一望しながら花見を楽しむことができる。また、裏夜景の美しい場所としても、人気のスポットである。

函館食べ歩き

電算課長・小林裕一

「奴寿司 高丘店」



●バドミントン部マネージャー
成田亜紀さん（1年）

「大学のそばに来て15年。函館大学の皆さんとは、草野球でのつきあいがあって、ごひいきをいただいています。残業のときなど、よく出前の注文をいただきます。ネタの良さと出前のスピードがモットー。文教地区という場所がら、9割近くが出勤とか。上（7巻十のり巻き、1,300円）、特上（9巻、1,700円）。もちろん店でも、気さく風のいい話とうまさがゆったり楽しめます。小上がりもあって、小宴会もOK。」



TEL0138-57-3488
営業時間/11:30~21:00
毎週月曜定休

「喫茶パゴ」



●バドミントン部マネージャー
高橋美奈さん（3年）

こちら、キャンパスのすぐそば。昼はランチ喫茶、夜はスナックになる気さくなお店です。昼の人気メニューは、スパゲティナポリタン（500円）、チャーハン（530円）、モーニングセット（500円）など。さすが学生街の店だけあって、どれもびっくりするほどの盛り盛りです。筆者の小・中・高校の先輩でもあるマスターは、ご夫妻で下宿もやっていて、20人ほどの函大生の世話をなされています。「ジャイアンツファンのお客さんならとくに大歓迎です（笑）」とマスター。



TEL0138-59-3698
営業時間/10:00~23:00
第一・第三日曜定休

「法律の窓口」

◆弁護士 佐藤憲一



1946年生
1975年より、函館市で弁護士

絶対に軽く考えてはいけません。交通違反

交通事故では、原則として当事者のどちらかが一〇〇％一方的に悪い、ということはありません。私が最近相談を受けたケースでは、暗い夜道で、前方に止まっていたトラックをよけようと右に回ったところ、車線をふさぐ格好でフォークリフトが止めてあり、間に合わずにぶつかってしまった、という事故がありました。常識的には、夜に道路をふさぐよ

うにしてフォークリフトを止めていた非常識な者が完全に悪いと思われるところですが、法的には、運転していた車の前方不注意もとめられることとなります。また、若者の運転につきものなのが、やはりスピード違反。スピード違反でも、特に制限速度を三〇キロ以上も超えるようなものには、きびしい処置が待っています。つまり三〇キロを超えると、警察のその場の取り調べに基づいて反則金を払って済む「行政処分」ではなくなるのです。以前にスピード違反で罰金刑を科せられたことがある人が四〇キロ以上のオーバーでつかまると、公判請求となつて起訴され、懲役刑となります。五〇キロを超えた違反では、たとえそれまで無違反であつても起訴されてしまいます。起訴されると、初犯では執行猶予がつきますが、二回目以降は実刑となります。まさかスピード違反で服役するなんて、と思うかも知れませんが、現実はそのとおりです。今の車は過剰なくらいに性能もよいので、郊外のすいた道ではいい制限速度を大きく超えてしまうことも決して珍しくはないでしょう。しかし、そこで自制心をしつかり働かせないと、自分の人生に取り返しのつかないキズをつけてしまうことになりま。またさらに、そのスピードのたに事故を起こし、人の命まで奪き添えることにしなければ、悔やんでも悔やみきれるものではありません。

「健康相談室」

◆むら矯正クリニック

みはら歯科矯正クリニック 理事長

村井 茂

気づいていますか。笑顔の大切さ

春には、転勤、卒業による別れがあり、それ以上に多くの出会いがあります。ホームシックになったり、ゴールデンウィークシンドローム（五月病）といわれる、精神的に不安定になりやすいのも、春から夏にかけての時期です。ストレスやプレッシャーがかかるもの、誰しもどうしても暗い顔になりがちなもの。しかし、そんなときでもおだやかにニコニコしていられる人は、回りからも精神的に安定していると思われる、初対面から好感がもたれることでしょう。そんな人からは、自信やすばらしい表情がにじみ出てきます。日本人は、名もなく貧しく美しくというように、きびしい状況下でも、つねに自信を持つことの大切さやそのための努力を惜しまない心を持っているようです。病（やまい）は気になるといふ諺のように、精神的な面が不安定になると病（やまい）も悪化しがちですが、逆を言えば、体調が悪いと表情までが暗くなってしまふということになります。

HEALTH

笑顔への物理的障害

健康な歯はいつの時代でも若さと活力の象徴であり、悪い歯や歯並びは、老いや不健康の兆候です。例えば前歯が一本なくなると、他人の注意はその抜けた歯に集中してしまふ、本人も口を手で隠すなどして、劣等感を持つてしまいます。笑顔がステキな女性のポスターで白い歯が見えないことがありえないように、白くきれいな歯並びは、「卓越した笑顔」をつくる必須の要素です。就職活動などでも、初対面から自信を持てるか持てないかは、心の健康に大きく影響することでしょう。

頭脳や運動神経はなかなか自分でコントロールすることができませんが、歯並びは、正しい矯正治療さえ受ければほとんどの場合よく治ります。つまり、気持ちさえあれば、誰でも「卓越した笑顔」を手に入れることができるのです。気軽に歯科医に相談してみたい方は、



1950年生 岩手医科大学歯学部卒業。元・市立函館病院歯科科長。1986年みはら歯科矯正クリニック開業。日本矯正歯科学会認定医学士

今年度は、以下の講座が予定されています。(多数のご参加をお待ちしております)

●平成7年度函館大学公開講座予定

区分	講座名称(仮称)	開催時期	講座概要
教養文化	海外事情講座	平成7年6月予定	●本学教員による、比較文化的なテーマを運ぶ講座です。 ●入場無料
教養家庭	市民教養講座「パソコン講座」	平成7年9月予定	●定員30名
教養文化	市民教養講座「分野未定」	平成7年7月予定	●定員100名
教養専門	市民教養講座「ワープロ講座」	平成7年8月予定	●定員30名
教養語学	やさしい英会話講座	平成7年8月予定	主婦の方を主な対象に、基礎的な英会話を楽しく学びます。 ●定員32名●受講料 3日間 1,500円
教養文化	文化講演会	平成7年10月予定	●著名な文化人により、社会人一般の関心の深いテーマについて解説を行います。●定員500名●入場無料
専門	公開講座	平成7年10月予定	●産業開発研究所主催の学術講演会、経営セミナーです。 ●定員150名●入場無料
教養文化	市民教養講座「スポーツ医療について」	平成7年11月予定	●最新のスポーツ医療についての講演と実技指導を行います。 ●定員80名

公開講座便り

「地域に開かれた大学」を志向する本学では、関係機関や学園各校のご協力も賜りながら、さまざまな公開講座を開催しています。昨年度の講座の一部をご紹介します。

文化講演会(平成6年11月2日)

●増え続ける交通事故を減らそう!

中嶋 悟氏

日本を代表する車のスペシャリスト、元F1レーサーの中嶋悟さん。日本人初のF1ドライバーとしての、現役時代の活躍は、まだ記憶に新しいところです。函館大学では、運転ライフ(人生そのもの)と言いつける中嶋さんをお招きして、昨年暮れに交通安全のための講演会を開きました。

本学に車というのは、人間が発明した画期的なものだと思います。とくに最近の自動車は快適だし、ついスピードを出している感覚を忘れてしまふんですね。だから、自分がアクセルを踏んでいるのに、自分ではない機械が操作しているような錯覚に陥ってしまう。だから、こわい。ばくの場合、走ることが仕事でし、生きているか死ぬか、で闘ってきたから、そのこわさをよく知っている。みなさん、もっと真剣に、事故のこわさを考えてみてください!

安全運転とは、自分も含めて、すべてを疑ってかかるとあり、自分を過信しすぎないことから生まれます。事故を減らすのは、実はスピードダウンなんかじゃないのです。それに、運転が上手いとか下手とかいうのも、関係ない。たしかに、私たちのようなスピードを競う世界では、関係あるかも知れない。でも、一般の道路で重要なことは、まわりが

見えているか見えていないか、見ようとしているかしていないか、ということだけなのです。自動車学校で教わることでなくて、わずかなことにすぎません。いくら教わっても、やっぱり実践。例えば、実際にこれだけハンドルを切れば、これだけ曲がるとか。そして、前後、左右、まっすぐ見ると、運転すると見えない。歩くのが速いと言われる大阪人です。この十倍以上のスピードが出ているときは、この十倍以上のスピードが出ているんです。十倍よく見て、十倍早く気がつかなければなりません。自分の力を過信しすぎないことです。

それから、歩行者に対しては、「手を上げて横断歩道を渡りましょう」という表現がありますが、手なんか上げなくてもいいんです(笑)。こんなこと言うと、警察に叱られますけど(笑)。手を上げて、もし運転手が見ていなかったら、意味がないんですよ。自分の目で、車が来るか来ないか、まわりをよく見る。大切なのは、手を上げることではなく、確認すること。



さて、ご存知のとおり、僕はF1レーサーでした。とにかく車が大好きで、レース前の緊張感や高鳴る心臓の音を聞いて、幸せだと感じていました。好きなことを仕事にできて、最高でした(笑)。それが、車の事故は増え続ける一方で、なかなか減りません。交通事故をなくすることはできないけど、減らすことはできます。大好きな車で、人が命を落とすことが、非常に悲しいのです。一人ひとりが気をつけて、日本の交通事故を減らしましょう!

「市民教養講座」 「家族と女性の社会生活史」

◆助教授 坂田 聡(平成7年1月18日)

本学坂田助教授の講座は、日本中世の「女性と家」の社会史を軸に、婚姻や家族形態の文化人類学的考察から近代の女性史、フェミニズム論にまでわたるたいへん幅広いものでした。

坂田助の論旨は、中世後期・室町時代に、日本の「家」や「女性」の地位の面で大きな構造転換があったとするもの。社会的な経済規模が拡大したこの時代は、父から一人の息子へと先祖代々伝えられる財産が初めて生まれた時期で、家の財産を守っていくという志向が起ってくる。こうして、代々続いていく「家」が成立すると、「女性」は家にしぼりつけられ、その地位も相対的に低下することになったといえます。鎌倉時代には、一般的に夫婦は別姓で、財産も夫と妻が別々に持っていました。したがって、代々続く家などなかったし、女性の地位も比較的高かったのです。この時代の「家」の成立は、まさに現在の家族形態につながる歴史の一大転換期だったのです。



思考する。発言する。行動する函館大学。

〈平成7年度〉

●企業派遣講師

- 【中小企業論】 福士隆三 (株式会社青森銀行)
- 【手形法・小切手法】 田中三夫 (みちのく信託証券株式会社)
- 【秘書概論】 蓮間從道 (東洋信託文化財団)
- 【銀行論】 石本一昭 (名古屋証券取引所)
- 【生命保険論】 下澤正彦 (三井生命保険相互会社)
- 【秘書概論】 桜田清光 (株式会社みちのく銀行)
- 【損害保険論】 田上寛 (東京海上火災保険株式会社)
- 【証券論】 長尾一史 (山一証券株式会社)
- 【信託論】 関野洋一 (住友信託銀行株式会社)
- 【不動産経済学(前期)】 鎌田孝男 (三菱信託銀行株式会社)
- 【不動産経済学(後期)】 藤原啓男 (三菱信託銀行株式会社)
- 【経済刑法】 千葉雄一郎 (函館地方検察庁)

おめでとうございます。
教授 宮崎正孝
全日本剣道連盟六段に昇格

●部会長・室長・委員長
教務部長 永盛恒男
学生部長 溝田春夫
就職部長 上平幸好
図書部長 新谷典彦
電子計算室長 大野和雄
産業開発研究所長 河村博旨
経営研究所長 大野和雄
入試委員長 高橋 真
国際交流委員長 松 喜美夫
公開講座実施委員長 大江田清志

体育クラブの主要成績

【ハンドボール部】

第22回北海道学生ハンドボール春季リーグ戦
(5月18日～5月21日)
1部リーグ優勝(17季連続27回目)

※東日本インカレ出場

◎今大会での個人表彰

得点王 4年次 西田稔
最優秀選手 4年次 西田稔
優秀選手 4年次 藤田浩司
3年次 前島勇嗣
1年次 奥野誠(全日本Jr候補の新人GK)

【硬式野球部】

北海道6大学春季リーグ戦
(5月3日～5月28日)

1部リーグ3位(5勝5敗)

◎今大会でのベストナイン
4年次 波澤哲也(二塁手)

【剣道部】

第41回北海道学生剣道選手権大会
(5月27日～5月28日)

3年次 越木雅文 優勝

3年次 高田悟 ベスト13入賞

2年次 鈴木信吾 ベスト13入賞

※以上3名が7月9日の全国大会に出場

【羽根球部】

北海道学生バドミントン春季リーグ戦大会
(4月25日～4月30日)

1部リーグ4位

【軟式庭球部】

春季全道学生ソフトテニス大会
(5月11日～5月13日)

男子1部リーグ2位

女子3部リーグ4位

【バレーボール部】

第28回大滝杯北海道大学男女バレーボール
春季大会(5月2日～5月4日)

3部リーグ5位

【硬式庭球部】

全日本学生テニス選手権大会北海道予選
(4月24日～5月13日)

ダブルス 4年次 相場栄樹

3年次 大窪良太

ベスト8入賞

【卓球部】

春季全道学生卓球選手権大会
(5月12日～5月14日)

ダブルス 4年次 花谷直史 篠宮幸司

ベスト8入賞

[平成7年6月6日現在]

クラブ紹介

楽しく、強く、めざせ
優勝！

軟式庭球部

これまで数々の全道優勝を果たしてきた強豪クラブ。現在の黒澤監督も、かつて全道を二連覇した名選手。昨年は、春季・秋季ともに一部リーグで二位。ですから今年こそ、の意気込みがコートの隅々には伝えています。メンバーは、二十八名。一年生六名。練習は、木曜日以外の毎日。土日も練習は欠かしません。といっても、勝利至上主義のハードなクラブというわけでもありません。「大学に入ってから始めるメンバーもいますし、まずなによりもテニスを楽しもうという気持ちでいます。まあ、そんなに意識しなくても、どっちみちテニスは楽しいですけど（笑）」とキャプテン。「でももちろん、気楽にたのしんでやっていると集中して行きます。各自がテーマを持って集中して行きます。楽しい！というのには、強くなつてはじめて言えることですから」。軟式庭球はインドアの大会も盛んですから、オフシーズンがありません。冬でも大会があります。一年中テニスに燃えるメンバーたちです。



●茂呂勝克（主将）

Club

熱中してます！キャンパスライフ。



たかが知れている。しかし、何人ものちりコンビを組めば、人数以上のすごい力が出る。そこが面白い」と松監督。毎年の目標は、北海道を超えて、あくまで全日本インカレのベストエイト。トーナメント戦では組み合わせに大きく左右されますが、コンスタントに関東一部リーグ（全八部まで）の中堅校の力があると評価されています。メンバーは三十一名。みんな、松監督のチームで思いやりハンドボールをやりたい！と燃えて来た人間ばかり。絶妙なコンビネーションの源泉は、もちろん熱いチームワークにあります。



●藤田浩司（主将）

全道十七連覇中の最強軍団

ハンドボール部

一九七九年の創部以来、北海道学生ハンドボールリーグ戦一部リーグで、十六年間に優勝二十七回。優勝率八二％。しかも一九八七年から十七連覇中。北海道で無敵の強さを誇るのが、ハンドボール部。自他ともに認める、函館大学を代表する顔のひとりです。函大ハンドボールの基本は、スピード＆コンビネーション。「ハンドボールに限らないけれど、人の力など



●柴田範仁（部長）

（練習はバンド単位で随時）を中心に、週二回の部会、毎年十二月の函館山頂ホール「クレモナ」でのライブ、月一回のサッカー大会（？）など、文化系クラブで、二を争う旺盛な活動内容を誇ります。「バンドは八つくらい。生ギター一本でソロでやるメンバーもいます。バンドのカラーは、硬派のロックからアイドル系やらエンタテイメント系まで、とにかくバラバラ。曲も、オリジナルからコピーまでいろいろですね。代表的なバンドは、セロニアス、トリッキー、チーターなど。名前だけでは全くその音楽が想像できませんが、なぜこんなに個性のちがうメンバーがひとつにまとまっているのかは、函館大学のミステリーのひとつ。きっとみんな、音楽を作るのが楽しくてしょうがないという気持ちでつながっているのでしょう。ぜひ一度、ライブをのぞきに行ってみましょう。」



文化局を代表する旺盛な活動

軽音楽部

総勢およそ五十名。月に一度函館市内のライブハウスの「ベイシテス」を借り切ったライブ（練習はバンド単位で随時）を中心に、週二回の部会、毎年十二月の函館山頂ホール「クレモナ」でのライブ、月一回のサッカー大会（？）など、文化系クラブで、二を争う旺盛な活動内容を誇ります。「バンドは八つくらい。生ギター一本でソロでやるメンバーもいます。バンドのカラーは、硬派のロックからアイドル系やらエンタテイメント系まで、とにかくバラバラ。曲も、オリジナルからコピーまでいろいろですね。代表的なバンドは、セロニアス、トリッキー、チーターなど。名前だけでは全くその音楽が想像できませんが、なぜこんなに個性のちがうメンバーがひとつにまとまっているのかは、函館大学のミステリーのひとつ。きっとみんな、音楽を作るのが楽しくてしょうがないという気持ちでつながっているのでしょう。ぜひ一度、ライブをのぞきに行ってみましょう。」

野又学園プロフィール

函館ソフトウェア専門学校

道南唯一の高度情報処理技術者養成機関として認定

本学の前身は、函館市、上磯町、大野町の三市町と地元経済界・金融機関が設立した第三セクター「函館情報技術開発センター」が運営する「函館ソフトウェア専門学校」であり、一九九〇年、野又学園が運営する「函館ソフトウェア専門学校」として再開校。九四年には、「経営管理科」と「ホテル観光科」を新設して校舎の増築も果たし、これからの社会のニーズにしっかりと応えることのできる技術者と経営管理実務者、ホテルマン・ホテルウーマンの養成に当たっています。



学科は、工業分野と商業実務の分野にまたがり、●情報技術科、●情報通信科、●情報処理科、●経営管理科、●ホテル観光科の五つ。情報技術科では、システムエンジニアや制御ソフトウェア技術者を、情報通信科では、システムエンジニアと情報通信ソフトウェア技術者を養成し、情報処理科では、システムエンジニアと情報処理ソフトウェアのスペシャリストの育成に当たります。ビジネス系の二学科である、企業経営の管理実務を身につける経営管理科と、観光都市函館にふさわしいホテル業務をマスターするホテル観光科では、東京の産能短大の通信教育部の教科が同時に学べ、卒業時には、専門士の証書と合わせて、短大の卒業証書（準学士）も同時に手にすることが出来ます。

設備の面では、充実したL.L.教室や専門学校では稀な体育館をはじめとして、情報系学科の最新のコンピュータシステムを取り入れた情報実習室や、ホテル観光科の実習用客室、フロントカウンターなど、全国レベルの環境を整えています。また、全ての実習室は、放課後には解放され、より深く広く学びたい生徒たちの情熱に応えています。

卒業後の進路は、道南地区への就職比率が高く、地域経済への人材の供給という使命を積極的に果たすこととなっています。



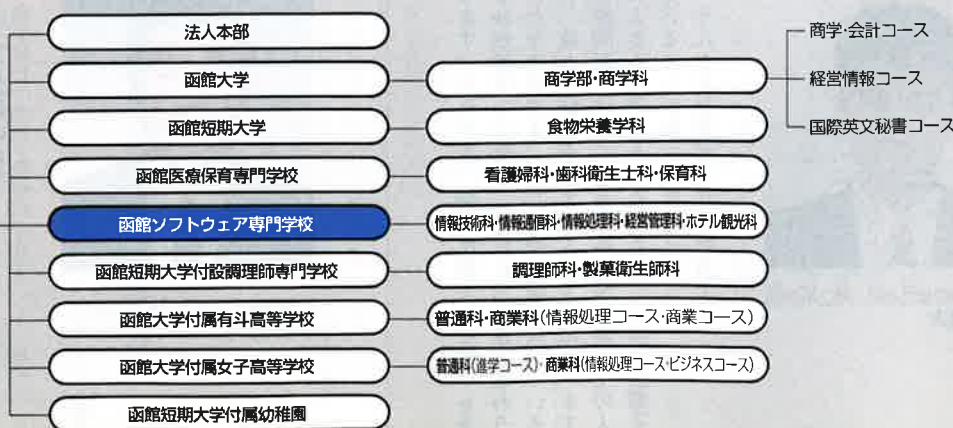
ロボットづくりで全国へ挑戦！

情報技術科では、一九九四年に行われた第三回全国専門学校ロボット競技会で、堂々第三位の座を勝ち取りました。これは、ロボットが垂直にぶら下がっているロープを登り、スイッチにタッチして、風船に点灯する時間を争う競技であり、放課後に有志が集まってコツコツと作り上げた「タカアシシモガニ二号」が、並みのライバルたちに競り勝ったものの、FA（ファクトリーオートメーション）など、最先端技術に対応する制御システムの開発を目指して学んでいる日頃の成果が、見事に発揮された結果と言えるでしょう。この成果をふまえて、また今年も新たな挑戦をしよう、有志たちははりきっています。



校長 北川 要

野又学園組織図



目標があるから、燃えてくる！

簿記研究同好会



商学の基本中の基本である簿記資格をがっちり取り取るというサークル。指導に当たるのは、新谷教授です。メンバーは二十五名。日商一級を絶対とするぞ！という人、二級とらないと実家に帰れないという人、商業の教諭をめざしている人、大学で何かをつかんだという成果がほしくて...という人、さまざまな動機で集まったメンバーたち。「来るもの拒まず、去るもの追わず、というのがモットー。受験という、となく試験に出そうな重要ポイントを丸暗記して合理的に合格しようなどと考えがちですが、ここではちがうのです。受験テクニックではなく、「なぜ？」を大切にしたい。理論的な土台をしっかりと身につけてもらいたいと考えています」と先生。毎回の集まりは、自分で勉強してわからなかったところを持ち寄るというスタイルで進められます。試験は六月と十一月ですから、ひと月前からは最後の追い込み。辛くても、厳しくても、同じ志を持った仲間といっしょだからがんばれます。

最高に楽しかった、 函館大学での学生時代

現在、週刊ヤングジャンプに『押忍!! 空手部』を好評連載中の人気マンガ家・高橋幸二さんは、第十六回卒業生。どんな大学生活を送り、どのようなサクセス・ストーリーを歩んでいったのか、ハードな締め切りの合間をぬって、お聞きしました。

「学生時代は、大学へも（あまり）行かず、ひたすらパチンコとマージャンの毎日（笑）。代返が効かないので、要領よく、返事だけして帰りました（笑）。でも、とにかく楽しかった！ 函館は海も近いし、温泉もあるし、食べ物もうまい。めちゃめちゃいい街ですよ（笑）。だから現在でも、函館へは年に一、二回は行きます。特に、長谷川ストアの焼き鳥弁当は絶品です（笑）」。

「マンガ家を目指したのは、一攫千金を狙って（笑）。高校時代にマンガ家になろうと決意してから、ムリかもしれないなんて思ったことは一度もありません（笑）。当時、ツッパリマンガが流行っていて、それに体育会系ノリをくつついたら絶対にイケル！ と読んでました。だから就職活動もしないで、卒業すると同時に上京。作品を持って出版社まわりました。運よく、集英社の方に気に入られて、八ヶ月目で即デビュー、即連載。パチンコじゃないですけど、フィーバーで、よし！ きたきた！ みたいな。以来、おかげさまで九年の連



マンガ家（第16回卒）
高橋幸二

載。でも、締め切り前の徹夜はしんどいです（笑）。
「ふだんはとにかくめっちゃくちゃ忙しいので、休日が取れると海外へ行きます。刺激を求めて、中米や赤道直下の近く、未開の土地にもどんどん旅行に行きます。スポーツ好きで、一年中スキューバダイビングをしてますね。大学の仲間とも、今でも集まってワイワイやっていますよ。会うたびに、「おまえが売れるのは納得いかない！」と言われてます（笑）」。



昨年春、函館出張の帰り、校舎を見学させて頂きましたが、建物や施設、設備の充実、また、校舎周辺の風景の様変わりには、本当に驚かされました。でも一つ、二十五年前と変わらない事を発見しました。それは、春休み中でスポーツクラブの学生が学内におり、何人かの学生が私と通りすがりに、「こんにちわ」と声をかけてくれました。一瞬の出来事です。非常にかわやかで、すがすがしい気分が帰って来ました。この事は、懐かしう大学を訪れた以上に、強く印象に残っております。



中道機械株式会社（第2回卒）
伊林徳男

「と書いてありました。これを取り払うのも『あいさつ』から始まるものと思います。今年度、当社に卒業生の玉澤氏が入社し、縁があつて一緒に働くことになり、赴任してきました。第一印象は、非常に若者らしく、元気ではきはきしており、また、あいさつもきちんとしており、大いに期待しています。良き伝統は、時代を超えていつまでも続いて頂きたいと思っています。私も社会人として二十五年を経過し、卒業時に故郷又学長から頂いた色紙『生涯学べ』を心の糧として、頑張っていこうと思います。」

私は東京の新宿にある建設会社に勤めております。所属部署は開発不動産部で、建設会社の不動産部門ではありますが、業務内容は一般の不動産会社が行っている業務とさほど変わりません。
不動産の業務というのは、非常に範囲が広く、それを少数人数で能率良く処理していくかなければなりません。また、法律・税務・経理・建築や土木の知識等、勉強しなければならぬことが山ほどあります。更に、時代の流れや市場について常にアンテナを伸ばし、新しい情報をキャッチしておくことが必要です。なぜなら、情報の正確さと新鮮さというものが、不動産取引を行っていく上で非常に重要だからです。業界は未だ古い体質が残っており、ガセネタも多く、注意を払っていてもトラブルに巻き込まれることも少なからずあります。



小田急建設株式会社（第24回卒）
山手康夫

ります。それでも、契約が成立した時やトラブルが解決した時は、非常に充実感を味わうことができます。また、不動産を扱っていると、様々な問題を抱えた人々と出会います。相続問題、破産、倒産、異性問題等、その人の人生を垣間見ることもあり、刺激や影響を受けることがあります。
そんな不動産業が私は好きです。

協学会だより

全国のご家族と函館大学を結ぶ 協学会の地区懇談会

本学と学生さんのご家族を結ぶ協学会では、毎年夏に北海道と本州をまわって地区懇談会を開催しています。平成六年度は、七月十七日の函館を皮切りに、以後二十三日まで、全国の十都市で開催されました。北海道での参加ご家族は、函館の九十四名をはじめ、室蘭十二名、旭川六十名、札幌三十八名、帯広十三名、釧路一名の計二百十八名、そして本州では、青森三十一名、盛岡五十九名、東京百三十三名、大阪四十七名と、全国で四百三十八名ものご出席をいただき、盛況のうちに

幕を閉じました。
大学からは、河村学長や上平教授を代表者として、多数の教職員が連日の懇談会に出席され、本会からは、川越会長をはじめ、東京会場には山村顧問、熊谷幹事（関東地区幹事）そして大阪会場には今中幹事（関西地区幹事）が、それぞれご多忙の中を出席され、ご挨拶等をいただきました。
懇談会の主旨は、函館大学の現況を伝え、ご両親からの質問にお応えする場を設け、本学がどのような大学かをご理解いただくことにあります。函館大学の過半数の学生が道外出身者であり、お子さんを手元から離している親御さんも多く、生活状況等がなにかと気

になるものです。現実に、不安や疑問を感じていらっしゃる親御さんも多く、大学内に指導・相談の場を望む声も聞こえてきます。そのようなご両親のために、個人面談では、お子さんの成績や出欠状況なども報告させていただきます。ただいております。
平成七年度の地区懇談会は、七月十六日から二十一日までの六日間にわたって開催される予定です。今年度は、より意義深く、さらにさまざまな意見の交換の場とするために、各都市において、懇談会の後に、二時間程度の懇親会（会費制）を催したいと考えております。一人でも多くの方の御出席を期待しております。

●平成七年度地区懇談会日程

北海道	函館	七月十六日
	室蘭	七月十七日
	旭川	七月十八日
	札幌	七月十九日
	帯広	七月二十日
（本州）	青森	七月十七日
	仙台	七月十八日
	東京	七月十九日（一、三年生）
		七月二十日（二、四年生）
	大阪	七月二十一日

特別寄稿

おれさまは教授様なるぞ

教授 宮崎 正孝

よいかな学生諸君
静かにしたまえ
もうすでに授業が始まっているのが分かるのか
煙草を吸ったり おしゃべりしたり
まるで小学校の一年生ではないか
これ諸君 静かにしたまえ
おれさまの声が聞こえぬのか
今日の授業は新年度の第一目の講義だというのが
これ おしゃべりを止めんか
これでは何も話ができんではないか
私語を謹みなさい
ほら その眼鏡の学生
煙草をよさないか
禁煙の字が読めないのか
まったくもう 今どきの大学生ときたら
礼儀の礼も知らぬらしい
おれ様をなんと心得てるのか
まったく失礼なやつだ
いいか おれ様は教授様なんだぞ
いいか おれ様は教授様なんだぞ
なんという連中だ
誰ひとり聞いておらん
おいこら その帽子の学生
馬鹿にするのもいい加減にせい
少し静かにできんのか

大学生は大学生らしく、少しは紳士らしく振舞えんのか
せつかく大学にふつてよ
おしゃべり おしゃべり
四年間終わるというのか
おねがい 後生だから
ちよつとでいいから耳を貸してくれ
これ この通り 手を合わせるから
諸君が講義をきいてくれなければ
おれさまの存在はどんな
おまんまの食いあげなんだ
頼むから静かにしてくれ
やれやれ ようやく静かになってくれた
これでなんとか面目を保てる
ありがたい
よろしいですか もう一度言わせてもらおうか
おれ様 いや 私は教授なんです
おわかりかと思ふが 教授というのは
なかなかないのですよ
大学を出てから 更に大学院に行き
教職について 講師 助教授の長い
研究生活の苦しみを経て
ようやくにして教授の地位に就いたので
その間 研究の外に
学生諸君の講義は持たねばならず
論文 著書も書かねばならず
それはしんどいことなのです
その外に学務といつて
入学試験の作問採点をしたり

高校や企業を訪問して大学の宣伝もするので
このような苦難の道の果てに
ようやく教授の地位が与えられるのです
おわかりですね 諸君
私の言葉は、すなわち 神のような言葉なのです
そのような言葉を聞いてくれなさいとは
とほほ なんと素晴らしいことよ
とほほ なんと情けないことよ……
こらこら その若いおふたりさんよ
さつきから なにをいちゃいつているのです
これは神聖な大学ですぞ
私の説明が解らないのですか
ほらほら その学生さんよ
マンガの内職ですか
それなんですがボールをいたすらして
そのような行為は神の冒瀆です
神も仏も居なくなつたら 世も末です
二十一世紀も未来もない
困った困った 今の大学生は
何のために大学に来たんだろう
その志は、どこに
その意気は、どこに
ああ 情けなや
皆さま 大学生の皆さま
聞こえませうか
うんとか すんとか 言つたらどうです
まったく いやになつちゃう
いいですか もう一度だけ言いますよ
もう一度だけです

大学は学問をする所です
学問というの……
ようやく静かになったと思つたら
みんな眠ってしまったわい ようしこうなつたら
やぶれかぶれのくそかぶれだ
こつちも負けずに眠つてやるわい
教授なんか くそくらえ
とほほ おやすみ……
十字切るサザンクロスや十三夜 白鷹
講師 井上能孝
熱年旅行！初めて豪州の土を踏む。赤いポトルブラ
シの花が印象的。夜空にサザンクロス（南十字星）が
十字を切り、南極の方位を指す。メルボルンの十三夜
の月は秋、そして今、日本は春。
戦後五十年。白豪主義の轍を超え、国際結婚第一
号の日本女性・チェリイさんに会えたことは感激でし
た。
●たくさん作品をお寄せいただき、まことにあ
りがとうございました。誌面の制約上、全てを
掲載できないことをご了承ください。
●第三号へも、ふるってご投稿ください。
●尚、掲載作品一点につき千円相当の図書券を進
呈させていただきます。

お詫び訂正

函館大学広報誌編集事務局

このことについて、大変ご迷惑をおかけしましたことを、お詫びしますと
ともに、ご訂正下さいますようお願いいたします。

(誤)

(正)

1. P4. ～5. 推薦入学「上原貴子」→第一期試験入学「上原貴子」(棚根姓)
一般試験入学「會沢千寿」→推薦入学「會沢千寿」
2. P21 1段目左4行目「台車」→「寝台車」
3段目左1行目「私の大学は」→「私の大学」
4段目左12行目「昭和三十四年」→「昭和二十四年」

以 上